筑波大学新聞

第249号
編集責任
筑波大学新聞
編集委員会
委員長 嶺 隆
TEL：029(853)2040・6699
E-mail
shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月 刊

発 行 所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1－1－1

静脈認証システム

低い認証率 誤認証も

全代会 全宿舎で信頼性調査へ

学生宿舎玄関の新施錠システムとして10月20日から春日地区で運用が始まった静脈認証システムに、人によって認証率が著しく低い、誤認証があるなどの問題が生じている。

本紙の調査によると、「認証率が低い」という報告は稼働している全宿舎地区から寄せられている。さらに、図書館情報専門学群の有志学生が春日宿舎を調査したところ、複数の人が同じID）で認証されることも確認された。

全学学類・専門学群代表者会議（全代会）は、こうした問題点をまとめ、10月26日、高橋健夫副学長（学生生活担当）に議案書として提出した。同システムの販売元、デジコム（本社＝東京・新宿区）は、現在、実態調査を行っている。

認証率が低いのは、居住者が正しい姿勢で解錠動作を行っていないからだという指摘もある。その一方で、全代会厚生委員長の小林敬介さん（エンス2年）は「機械にも問題がある」と見ている。工学システム学類の計算機室は、日立の指静脈認証システムで入室を管理しているが、「認証率の低さや、誤認証などの問題があるという話は聞いたことがない」という。

春日地区有志学生の調査結果を受けて、全代会は今後、他地区宿舎でもシステムの信頼性を調査することを決めた。「相当ひどい場合によっては運用中止を求めることもある」と話している。（11面に関連記事）

新学群コア・カリキュラム

開設5学群にとどまる

理工 数学をコア科目に

人文・文化 3学類で共通授業

07年度にスタートする新学群新学類で、一体、どのような学問が学べるのか。「新しい教育組織を実体化するもの」（岩崎洋一学長）として位置づけられた新学群の「コア・カリキュラム」づくりが進んでいる。新学群レベルの委員会は10月下旬、議論を集約し、新学群編成委員会（委員長＝林史典副学長、教育担当）に報告、これをもとに同委は12月下旬にも文科省に報告書を提出する。だが、新学群のうちコア・カリキュラムをまとめたのは5学群にとどまる。教育理念をめぐって、あるいは現在のカリキュラムとの調和をめぐって、作業は思いのほか難航したようだ。（本紙・中田絢子＝比較文化学類）

新学群移行と同時に「コア・カリキュラム」が設置されるのは、人文・文化、人間、生命環境、理工、情報の5学群。残りの4学群は、さらに検討を重ね、次年度以降に持ち越した。

学類を大幅に改組し、新設学類もある情報学群以外は、「現在のカリキュラムを、いかに痛めないで設置するか」に苦慮した。共通しているのは、現行の卒業単位を増やさず、その中に組み込んだことだろう。

人文・文化学群はコア・カリキュラムではなく、人文・文化学群共通科目という名称を用いる。同系学群専門委員会委員長の山田宣夫教授（人文社会、第一学群長）によれば、「教養教育から専門教育への橋渡しと専門教育への導入の役割を担う」と定義付けた。学期完結型で、3学類（人文、比文、日・日）に共通する哲、史、文、言語学の4分野から年3コマ開設する。授業は各学類の教員がオムニバス形式で担当する。総合科目Aと、どう差異化を図るかが焦点だ。

社会・国際学群では、07年度には開設せず、新学群に移行後、検討を重ねる。社会学類は社会、法、政治、経済学の4主専攻分野がある。一方国際総合学類は、国際関係学と国際開発学の2主専攻分野。社会学類長の松岡完教授（人文社会）は「コアは学問の本質を指すが、社学の4専攻にすら共通のコアなどないのに」と困惑する。それでも学群として関連性を強めるため、両学類の授業40―50科目を共通化する方向で検討している。

生命環境学群は教職関連科目として、現在各学類が他学類向けに開講している理科の基礎的な授業を「学群コア科目」とする。同系学群専門委員会委員長の林純一教授（生命環境）は、各学類が独自の学問分野とする授業を提供しあうことで、「学群理念が理解できる」という。「最低限の労力で最大限の効果を狙った」と語る。

人間学群は教育、心理、障害科学類が、互いに他学類の専門基礎科目を必修化する。この他「人間フィールドワーク」という実習と、「キャリアデザイン入門」などを新設する。同系学群専門委員会委員長の新井邦二郎教授（人間総合）は「コア・カリキュラムのはっきりとした定義はないが、人間学群の看板になるよう腐心した」と話す。

一学年520人と最も大所帯の理工学群は、各学類で必修となっている数学をコア・カリキュラムにする。工学基礎学類長の喜多英治教授（数理物質）は「理工学群生が共通に持つべき素養で、大幅な教育課程改編は必要ない」と理由を挙げる。「一からコア・カリキュラムを作るにはもっと大胆にやらなければならないが」と言葉を濁しつつ、全員に共通の科目を開設するには大幅なカリキュラムの改編が必要なことを強調した。

アスベスト学内調査

試料の解析遅れる

公表12月以降にずれ込む

学内におけるアスベスト（石綿）の使用状況や劣化状態を現地調査してきた施設部は、10月までに筑波地区で全て完了、現在、久里浜養護学校や、他都県にある研修所などの調査を急いでいる。調査対象となったのは、96年以前に建てられた建物729棟のうち、アスベストを使用している可能性がある265棟。

調査は、目視調査とサンプリングを中心に行われた。その結果、対象となった265棟のうちこれまで、宿舎7棟、校舎等32棟で、含有の疑いがあることがわかった。

結果は、11月15日までに文科省へ報告する。施設部は当初10月中に調査を終え、結果を公表したいとしていたが、採集した試料の分析が遅れ、全容が判明するのは12月中旬になる見通しだ。

アスベスト対策連絡会（座長＝岡本健一環境安全管理室長、数理物質・教授）は、これまでに会合を3回開いた。空気中のアスベスト飛散量が、大気汚染防止法で定められている基準値、1リットル中10本以内を参考に、対策を検討している。施設部は、「結果によっては建物や、部屋等の使用を制限する措置もありうる」と話している。

新学内バスパスカード

売り上げ予想通り

冬季の販売増に期待

新学内交通システムで学内構成員向けに販売される特殊定期券の売り上げが、10月末現在、学生1932枚、職員約700枚となったことがわかった。売り上げ総額は820万円程度とみられる。

特殊定期券は、学生証にシールを貼って利用する。学内の丸善で販売している。販売期間は8月24日から3月31日まで。購入時期によって価格が変動することはない。価格は、学生2450円、教職員4900円。

売り上げ状況に関して、総務課は、ほぼ予想通りとしている。発売時期が8月末と遅れ、自転車や自動車など他の移動手段が定着しているため、開始後は購入者の伸びは小さいと見込んだからだ。同課では冬が近づき、気温が下がると、購入者が増えるとみている。

学内バスを利用していた小田切明子さん（環境科学研究科2年）は「天気の悪い日に利用している。安いので非常に便利だ」と話した。

パスカードを提示する学生

紙面から

吉池後任 浴場は年中無休に 2
図情院生『三浦綾子 人と文学』出版 5
バスケ女子 2年連続V12回 9
ズームアップ 学内の地震対策 10
静脈認証 学生生活課「認証にはコツ」 11
ガイド 芸サ連 クリスマスコンサート 12
特集 6,7 学内の池を探索
ミニ特集 3 ゲート化された駐車場の功罪

高橋健夫副学長（学生生活担当）の話 現在全力を挙げて調査、検討している。トラブルには24時間体制で対応しているが、あまり利用されていないようだ。不具合は、すぐに連絡して欲しい。11月下旬には試行実験の結果も出るので、それらをみて、今後の対応を考えたい。学生の安全確保のための新たな試みなので、ご理解、ご協力頂きたい。

筑波おろし

最近、女子高生の間で方言を使うことが流行していると聞いた。そういえば方言を取り上げるテレビ番組が増えた。だが、流行っているのは関西弁や九州弁。私の故郷、岩手を含む東北地域の方言を聞くことはない▼筑波でも関西弁は耳にするが東北弁を聞いたことはない。それよりも気になるのは、その土地と無縁な人が方言を使うことだ。例えば、東京の女子高生が流行語として京都弁を使っているのを見ると、違和感を覚える▼標準語政策は明治以降、学校教育の中で押し進められ、そのとき、方言を話す際に劣等感・差別が生まれたという▼東京に生活する東北出身者は標準語を使うが、関西出身者は関西弁で通すことも指摘されている。しかし、テレビ・ラジオによる標準語使用の影響で、純粋にその土地の方言を話す人口は確実に減っている。方言と標準語を使い分ける「バイリンガル」が増えているという（矢澤真人助教授、人文社会、日本語学専攻）▼方言が安易に使われることで、その土地に根づく温かさや心意気が忘れ去られていかないだろうか。昔話を朗読する際に使う方言はなんとも言えず温かい。生まれ育った故郷のよさを、言葉から感じる人も少なくないはずだ▼時代は変わり、方言が流行現象になった。そんな時だからこそ、方言の意味を考えたい。

食堂・売店は開業日未定

吉池後任
浴場は年中無休
営業時間　午後11時半まで延長

閉店間近の一の矢売店。菓子や文具の棚は、ほぼ何もない。生鮮食料品の仕入れは11月10日が最後だった（11月8日撮影）

吉池サービス（本社＝つくば市天久保）が11月24日に完全撤退することを受け、厚生会連絡委員会は後任業者3社と最終的な業務計画を協議している。学生生活課によると、11月25日から通常営業を開始するのは浴場業務のみになりそうだ。売店、食堂は店内を改装するため、25日からの営業は困難だという。

学生宿舎の食堂と浴場を受託予定のEXサービス（本社＝千葉県野田市）は、浴場の営業時間を現行の午後10時半（平日）までを午後11時半まで延長する。長期休暇中も休まず営業する。短縮営業は、検討中だ。

同社は、浴場業務開始に向けて話し合いを進めている。入浴料金は現行と同じ1回170円だが、新たに回数券制度を導入する。20枚つづりで5％の割引を予定している。

また、6月に全学学類・専門学群代表者会議（全代会）が実施した「宿舎共用棟の浴場に関するアンケート」で不満の多かった衛生面の改善に力を入れる。今まで使われていた風呂いすを処分し、清掃方法を改善することを計画中だ。長期休みを利用し、施設を改修することも検討している。

売店業務を担当するホットスパーコンビニエンスネットワークス（本社＝土浦市）は午後11時まで営業することを決めた。追越宿舎では、現在、食堂として使われている場所の一部を売店に転用する。このため追越地区から食堂がなくなるが、代わりに軽食を割引価格で提供する予定だ。

吉池サービスが行っている宅配便とクリーニングもホットスパーにより継続される。学生生活課は「細かい要望を伝えて、企業側に実施の有無を決めてもらう。平砂地区だけでも実施したい」と話している。

大学発ベンチャー
本学、42社で5位浮上
学生の起業相次ぐ

産学リエゾン共同研究センター（ILC）の菊本虔教授（人間総合）らが行った大学発ベンチャー企業の創出件数調査で、本学は、全国で5位で、前回より一つランクを上げた。1位は2年連続して早稲田大、国公立では大阪大、京都大に次いで3位だった。調査は8月末までに創出されたベンチャー企業を対象に行われ、今回で6回目になる。

本学発ベンチャー企業を実数でみると、昨年度の30社から12社増え、42社となった。8社は今年度新規設立されたもので、うち4社は、今回の調査で所在が判明した。

今年度は、山内学さん（図書館情報メディア研究科2年）が設立したインターネットの検索エンジンを提供する「コトハコ」や、星野厚さん（理工学研究科2年）が開発したインターネット生放送の編集システムを販売する「ニューフォレスター」など、院生によるIT関連会社の起業が目立った。菊本教授は「ILCの影響で全学的に、大学発ベンチャーに対する関心が高まっている」と話した。

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ
人文社会　有職社会人対象に
医療　海外機関に派遣も

若手研究者の養成機能を強化するため、文部科学省が新規に設立した「『魅力ある大学院教育』イニシアティブ」事業に、本学の人文社会科学分野から「大学・企業間インタラクティブ研究者の養成」が、医療科学分野から「世界基準を体感する武者修行応援プログラム」が採択された。8件申請し、5件が同省でのヒアリングに進んでいた。年間約5000万円を上限に、2年間補助金が支給される。

「大学・企業間インタラクティブ研究者の養成」は、有職社会人を対象とした大学院教育のモデルを構築する。実務経験に基づくテーマを指導するほか、職務によって履修が滞ることを防ぐため、中間審査を行うなどのカリキュラムを実践する。

企業科学専攻・経営システム科学専攻・企業法学専攻の連携を強化する。また、法律の専門家や学外の研究者、企業との共同研究を進め、企業内で発生する多様な問題に対応できる研究者を育成する。

「世界基準を体感する武者修行応援プログラム」は、1、2年次は、産業技術総合研究所など、連携大学院の拠点で研究発表や討論を訓練し、インターンシップとして単位を認定する。

3、4年次になると、海外で先端医学の研究を体感するため、アメリカのジョーンズ・ホプキンス医科大学、スウェーデンのウプサラ大学など、本学と提携を結んでいる大学や研究所に派遣する。また、開発途上国における医学教育の研究システムを学ぶため、ベトナム国立大学にも派遣する予定だ。永田恭介社会環境医学専攻長（人間総合・教授）は、「開発途上国に裸一貫で飛び込み研究者として活動できれば、自信がつくのでは」と話している。

就職情報提供システム
パッケージ化して販売
埼玉大 来春にも導入へ

就職課が発案し、ソフトウェアやシステムを販売するKCS（本社・水戸市）と共同開発した就職情報提供システムを他大学に販売する計画が進んでいる。同システムは1999年に導入され、就職課と同社が改良を進めてきた。現在、データベース用のソフトを変更するなどして、パッケージ化を進めている。同社によると価格は1000万円以内で検討している。

就職課は、関東甲信越地区就職指導担当職員研修会などを通じて、同システムの内容を事例研究として紹介してきた。埼玉大学が来春に向けて、購入を検討しているほか、公立大学と私立大学それぞれ1校が関心を示している。

本部棟2階の就職資料室。4台のパソコンがあり、学生は誰でも利用できる

同システムには、企業・教員・公務員の求人情報を始め、企業訪問のためのOB・OG名簿、就職活動Q&Aなど就職に関する多くの情報が蓄積されている。学生にはパスワードが与えられ、これにより登録した学生には、月1回、メールマガジンで直近の就職情報を提供している。

就職課の久保田優係長は「内定先の統計資料を作成するのに有効。他大学の就職課にとっても、魅力的なのでは」と話している。

知的財産統括本部
利益相反マネジメント施行
学外者が審議に参加も

産学官連携の活発化にともない、11月1日から利益相反マネジメントが施行された。教職員と企業間の金銭面のやりとりなどを透明化し、社会からの信頼を得ることが目的だ。

知的財産統括本部（本部長＝油田信一副学長、研究担当）が昨年12月にまとめた利益相反ポリシーに基き制定された規則では、教職員が企業から研究費補助金を受けた場合、各研究科を通して報告することを義務づけた。これを受け、利益相反アドバイザーが、教職員からヒアリングすることになる。

さらに議論が必要だと判断された場合、利益相反防止委員会（委員長＝油田副学長）で審議する。未公開株の譲渡など許容できないと判断した場合、金銭的利益を放棄させたり、研究プロジェクトへの不参加を勧告する。

同委員会の中立性を維持するため、学外の有識者で構成する諮問機関利益相反アドバイザリーボードが設置された。利益相反防止委員会から許容範囲外と判定された教職員からの異議申し立てに対して、控訴審的な役割を担うほか、同委員会と意見交換を行う。

油田副学長は「産学連携が活発になるほど、金銭的利益相反の問題は起こりやすい。ルールを構築することは不可欠」と話している。

日本語・日本文化学類
リュブリャーナ大で出張講義
日本研究への関心高める

日本語・日本文化学類の教員が海外で出張授業を行う国際交流事業「世界の中の筑波大学」の一環として、10月24日から26日までスロベニアのリュブリャーナ大学で同学類の教員6人が授業を行った。出張授業は7月の中国・大連大学に続き、今回で2回目。今年度はもう行わない。

授業は同大学文学部アジア・アフリカ学科日本研究専攻で各80分行い、それぞれ約50人の学生・教員が参加。使用言語は日本語で、現地の教員がスロベニア語で通訳した。

初日は砂川有里子教授（人文社会）らが「最近の若者言葉」などについて講義した。2日目は江藤秀一教授（同）がヨーロッパと日本の交流について話し、英語で質問を受けた。3日目に授業を行った小口千明・助教授（同）は日本の生活文化を理解してもらうため、稲作から地域の特色を探る学習法を提示した。日本とスロベニアの土地条件を比較し、学生の関心を高めた。

同大と本学は1997年に協定を結び、現在は本学を卒業した8人が教員として活躍するなど交流を深めてきた。日本研究専攻は今年で開設10周年。同学類から日本研究に関する144冊の本を寄贈した。

派遣した教員は同学類から募集した。今年度は大学から同事業に310万円の予算が配分され、2回に分けて使用した。来年度の出張授業は未定だという。今井雅晴学類長は「学類に限らず、今後は多様な分野の教員にも参加してもらえれば」と話している。

訂正　第248号1面「役所仕事から脱却へ」の記事で吉田毅監事とあるのは吉井毅監事の間違いでした。お詫びして訂正します。

駐車問題の今を探る――

学生、大学、市民の間にズレ

違反駐車を減らす切り札として3年前、駐車場のゲート化が始まった。交通安全会は効果ありと見ているが、許可スペース外の駐車は依然多い。学生、住民、大学と、三者の考え方の差が浮かびあがった。（本紙・清原碧、藤井沙織＝社会学類、兵庫義夫＝図書館情報専門学群）

交通安全会の見方

駐車場の交通環境を整備し、交通秩序を保持する交通安全会は、最近の違反駐車をどう見ているのか。

本学は、02年から駐車場のゲート化を進めた。03年からゾーン制を採用したため、本来の収容台数の4、5割増で運用できる。駐車場の利用を申請するほぼ全員に、駐車証を発行し、しかも申請者の第一希望の駐車場が割り当てられている。

02年からゲート化採用

悪質な違反駐車が減少

万一、希望に添えない場合でも、なるべく近い駐車場を割り当てている。一年中いつでも申請でき、1週間ほどで許可が下りる。

交通安全会の黒沼功さんは「学内の駐車環境が、本当に良くなったと思う。悪質な駐車も減った」と話す。悪質な違反駐車に対して取られる施錠は02年に396件、03年に228件、04年は110件と年々減少している。

交通安全会によれば、ゲート化によって車上狙いなどの犯罪も減少したという。「駐車場に乗り入れて潜伏する犯罪者を閉め出せる」と説明する。大学の調べでは、車上荒らしの件数は03年19件から04年10件と減少した。黒沼さんは「学内の不審者自体が減ったという印象だ」と話した。

ゲート化開始当初、近隣、学生双方から「学外に違反駐車が拡大している」という声が多く寄せられた。しかし、最近、そういった苦情はないという。

地域住民からの声

多くの本学生が住む春日4丁目では、路上駐車が絶えない。住民の一人は「学生が、自宅の車庫の前に駐車していて、車を出せなかった。注意をしたら、反発された」と話す。ゴミ収集車が入れなかったり、消防車が回り道をしなければならないこともあったという。通行が妨げられるほか、路上駐車の台数を調査してきた。地区内の道路を17つに区分し、午前6時から午後6時半までの路上駐車台数を約一週間調べた。

春4自治会 路上駐車の台数調査

継続的に注意を喚起

2002年10月に実施した第1回調査では、一日平均137台の路上駐車を確認した。この結果を受けて、翌年2月からつくば中央署が取り締まりを強化、約1カ月間で、本学生82人を検挙した。

03年3月から6月までに行った第2回調査では、一日平均44・8台と激減した。その後、03年9月の調査では、一日平均42・8台、05年の調査でも、一日平均40台と大きな変化はみられない。

03年から、住民たちは独自に、路上駐車の禁止を訴えるポスターを、アパートなどに掲示している。04年までに約1000枚作成した。継続的に注意を喚起するため、色が褪せる前に、新しいものに貼り替える。制作費13万5千円は、自治会費の約3年分だという。

同自治会は「2年前の取り締まり強化で、路上駐車の数は大幅に減ったが、その後、改善が見られない。さらに対策を考えなくては」と話している。

「路上駐車の列は、空き巣にとって好都合。空き巣の車が紛れていてもわからない」と懸念する声もある。

同自治会は、3年前から路上駐車の台数を調査してきた。地区内の道路を17つに区分し、午前6時から午後6時半までの路上駐車台数を約一週間調べた。

一の矢 「今も昔も一番ひどい」

二学周辺 夜の一人歩きに不安

相変わらず迷惑駐車

学内で最も迷惑駐車がひどいのは一の矢地区だという声がある。関東鉄道バス運転手の関共二さんは「昔も今も一番ひどい。道路の両脇に何台も止められていて、対向車とすれ違うのが大変」と漏らす。進行方向と反対に駐車している車もあるという。

一の矢地区のループの迷惑駐車は、夕方から夜にかけて多くなる。関さんは「行事のある日は特に駐車が多く、一日中だ。停留所の手前の駐車にも困っている」という。

路上に停める理由は人それぞれだ。「手続きが面倒」、「お金を払うのがいや」は単純だが、多数派だろう。ある女子学生は「夜道を歩くのが怖い。できるだけ宿舎の近くに駐車したくて」という。家族で入居している留学生は、「車を複数持っているが、登録できるのは一台限り。しかたなく路上駐車する」と話した。

宿舎地区以外に目を転じると、特に迷惑駐車が多いのは総合研究棟Aや共同研究棟などが並ぶ第二学群棟付近と、南駐車場だ。交通安全会の黒沼さんによると第二学群棟地区では夜間、研究室の近くの駐車場や路上に停めてしまう学生が多い。南駐車場には駐車証を掲示せず駐車しているケースが目立つという。

交通安全会は、ライジングサンに業務委託して学内の駐車場の見回りをしている。時間は午前8時半から午後5時まで。午後5時から午前1時までは宿舎地区を重点的に回る。土、日は見回らない。そのため、この時間帯は違反駐車が急増する。交通安全会は学生の自主的なモラルで改善してもらうしかないという。

夜間の迷惑駐車の多くは、研究のため大学に来ている学群生や院生による。各支援室で通学距離に関係なく夜間パスを発行して対応している。しかし、「夜中に、研究室から離れた駐車場まで行くのが怖い」と、利用しない人もいる。

昨年秋には、本部棟前駐車場のロータリーで、院生が恐喝に遭う事件が立て続けに起きた。スクーターに乗った地元の高校生らに襲われたケースが多い。昨年、セーフティ・プロジェクトでハザードマップ作成に携わった佐々木緑さん（当時生命環境科学研究科4年）は、「夜間に駐車の取り締まりをするのなら警備の強化もして欲しい」と話していた。

11月9日午後1時ころ、施錠された迷惑駐車する車を避けて通る学内バス（一の矢ループ上で）

警察 市民から苦情も

路上駐車 8割が本学の学生

今年4月から10月までに、春日、天久保地区の住民からつくば中央署に出された路上駐車に関する意見、要望書は15件だった。電話での苦情は文書の2倍以上に上る。同署の関茂交通課長は「同地区内における路上駐車の8割は、筑波大生ではないか」と話す。

関課長は、本学生による路上駐車が多い理由について、「登録変更をしていないから」とみる。実家で購入し、つくばのアパートに持ってきた車を、登録変更せずに利用するため、つくば市内に車庫証を持たない学生が多い。登録には保管場所を確保する必要があるが、登録変更しなければ、駐車場を確保する必要はない。アパートに駐車場が設置されていない場合や、利用料金が高いという理由で、学生が車庫代わりに路上に停めてしまうらしい。

道路交通法の反則金は1万5千円だが、車庫法では20万円以下の重い罰金が課せられる。だが、同法は昼間12時間以上、日没から日の出までの8時間以上などと細かい規定があるため、取り締まりが困難だ。帰宅が遅い学生の場合、適用されないこともある。

春日、天久保地区は、駐車規制が実施されていない。同署は、1、2カ月後をめどに、規制をかけることも検討しているという。

障害者専用駐車場

重度の障害者や車いすドライバーは、車のドアを全開しなければ、乗り降りできない。そんな人たちのために設置されている障害者専用駐車場に「ちょっとの間だけ」「ちょうど空いていたから」などと軽い気持ちで、健常者が駐車してしまうケースが問題となっている。学内には多くの障害者専用駐車場が用意されている。50台以上の駐車場には、専用駐車場を設置する努力義務があるためだ。

車いすドライバーは、横3・5メートル程度、ドアを全開にできるスペースがなければ、車から降りることができない。仮に一般の駐車スペースに十分な空きがあり、駐車できたとする。しかし隣りに別の車が駐車してしまえば、乗車できないのだ。もし、隣りに停めた車のドライバーが1日帰ってこないとしたら…。

車いすドライバーにとって専用の駐車場は不可欠だ。

バリアフリーの研究者で、障害者の駐車問題について調査している徳田克己教授（人間総合）は「学内では、駐輪のマナーについては周知が進んでいるが、駐車のマナーに関しては、よく理解されていない」と語る。学内で障害者用の駐車場に停める学生は、障害者用駐車場の必要性を知らないケースが多いという。

徳田教授によると、学内でひどい箇所は、総合研究棟Aの駐車場。5台分の障害者専用の駐車場が用意されているが、健常者の車が必ず駐停車しているという。学生から教員、職員、業者ときまざまな人が平気で駐車していく。徳田教授は「注意すると『急いでいた』『知らなかった』とうそぶく」とため息をつく。

交通安全会でも、障害者専用駐車場への違反駐車は「指定車両以外の違反駐車」として3点の罰則とし、看板を設置するなどの対策をとっている。交通安全会は「利用者のモラルでルールを守ってもらいたい」と話した。

健常者 迷惑考えず不正利用

問われる利用者のモラル

11月7日午後2時ころ、障害者用駐車場を取り締まる警備員（総合研究棟A棟の駐車場で）

反射鏡

今月のテーマ『アルバイト』

通訳に励み知識豊富に

趙旭曄（国際3年）

中国に4年間滞在した経験があり、そのときに覚えた中国語で通訳のバイトをしている。東京での仕事が多く、その都度、筑波から通っている。先方は学生グループから大企業、国家機関のミッションまで。様々な人に触れ合うことができる。

今年開かれた「愛・地球博」で中国や台湾からの来場者を中心に案内する仕事をした。国際博覧会の運営に直接関わって、日本を代表する「生の顔」として世界中からやってくる人々をもてなすという、とても貴重な体験だった。

「自分が楽しめなければ来場者も楽しめない」を常に意識し、迷子探し（会場では迷子の呼出し放送は原則行わなかった）お昼から日が暮れるまでずっと動くようなハードな日も、他のスタッフや部署と連携しながら無事に乗り越えた。

常連者や仕事で知り合ったスタッフなど、いろんな人と仲良くなり、閉幕式やフェアウェル（最終日の夜に行われた最後のイベント）ではみんなで感動した。オフの時はみんなで笑い合い、語り合ったりと、人生において思い出深い一頁を飾ることができた。

仕事と学業の両立が問題だった。学期中は土日のみ、夏休みでも、集中授業や、余暇に使うため、通訳は多くても数日間だけの担当になる。学生だからと言って大学のレポートや試験などを理由に仕事を怠ったり、逆に仕事が忙しいからと大学のレポート提出を遅らせたりすることは、当然のことながら許されない。通訳は事務的に言葉を訳すだけではなく、日本での滞在自体を楽しんでもらい、充実したものにしていくためにも、買い物の手伝いやおいしいお店、今話題のスポットやイベントへ案内した。

専門用語や専門性の高い会話を訳すときに備えた予備知識の仕入れも、仕事によっては必要だ。例えば来年開通する台湾高速鉄道（新幹線）ミッションの通訳を担当した時は、先方は日本側がJR、台湾側が台湾鉄路管理局（国鉄）という、非常に「大きい仕事」なだけに、鉄道の専門用語（もちろん日中両方、必要な時は英語も）の勉強や、日本と台湾の鉄道に関する本を読んだ。さらに専門紙の新聞や雑誌などで最新の情報を仕入れるなど、10日間の通訳にかかった準備時間はおおよそ1カ月間だった。今では新幹線に関してならそこらへんの鉄道マニアよりも多く知っているかもしれない（笑）。

寝食共にし仲間と交流

石川由梨佳（比文1年）

今年の夏は、今まで経験してきた中で一番印象に残る夏となった。私は、夏休みの34日間、雲を眼下に見下ろす富士山8合目の山小屋で、住み込みのアルバイトをしたのである。

その仕事の内容は、朝一番の小屋掃除に始まり、従業員の大切な生活指標となる1日5回の食事やおやつの準備、午後から入り始めるお客さんへのカレーやおかずプレートの提供、最後に厨房全体の掃除を行って、その日1日の仕事を終えるというものだ。

おおまかな仕事内容は前述の通りだが、水が大変貴重であるという富士山特有の環境の中、同じバイト仲間と共同生活をしながら山小屋を運営していくことは、一人一人に、自他を律する厳しさが要求される。

しかし、仕事上、厳しい人間関係と同時に、そこには、24時間寝食を共にする友達以上の関係、もうひとつの家族のようなつながりが生まれるのである。

私は生活と仕事という営みが融合した環境での日々が、私の人生の一部として、私を形作るものの一部として、今の私に強い影響を与えたことを実感している。それは私がこのバイトを選び取ったときから、もちろんお金を稼ぐという大前提はあったが、それとは別に、これからの自分につながっていく何かを得たい、自分というものを知るひとつのきっかけにしたいという意志を持っていたことが大きいような気がする。

私自身、ただバイトをするというだけでは物足りず、お金とは別に得られるプラスアルファの部分を強く望んで、そうして自分の意思で選び取った仕事をすることにバイトの醍醐味を感じている。

何かが変わるんじゃないかという受け身の姿勢でなく、自分からそこにあるものにヒントを得たり、何かを体得しようとする主体性を持ってバイトをすることが、そういう気持ちの持ちようひとつでバイト生活がより豊かな経験となって、自分に還ってくると思う。

筑波時評

ネット本 リアル感が人気の鍵 書籍の概念未だ強し

松林麻実子

ここ数年、「ネット本」と呼ばれる書籍が注目を集めている。例えば、2004年に新潮社から出版された『電車男』は2ちゃんねると呼ばれる巨大なコミュニケーションサイトの一角で繰り広げられたやり取りを書籍化したものである。刊行後半年あまりで101万部を突破するなど、不況と言われる出版界において特筆すべき売上げを記録した。あまり時間をおかずに映画化、テレビドラマ化されたことも、売上げに拍車をかけたと言われている。さらに、現在フジテレビ系列で放映中の連続ドラマの原作である『実録鬼嫁日記』（05年）のようにブログが書籍化されたものや、『DeepLove』（02年）などのように携帯電話で配信されていた小説が書籍化されたものも登場している。特に後者はシリーズで発行部数270万部という大ヒットを記録している。

では、これらの「ネット本」は、これまでの書籍と決定的に異なる何かを持っているのか。言葉がらフーである。『電車男』が大ヒットを記録したのは、おそらく、それがコミュニケーションサイトのやり取りから出来上がったものであるというメディアの形式に由来したものではなく、アキバ系のオタクが美女に恋をして、紆余曲折の末それが成就するというシンデレラストーリーが読者に受け入れられたからである。もちろん、コミュニケーションサイトがもとになっているということで、小説では得られない種のリアルな感覚を読者は得ることができる。それを、従来の書籍にはない新しさだ、とする見方もあるだろう。しかし、書籍としてヒットした時点で、おそらくそのリアル感は急速に薄れている。『電車男』書籍化の話が出たとき、「電車男」が実在の人物である保証がないことを理由に難色を示した人々がいたという話を聞いたが、誤解を恐れずに言うなら、書籍『電車男』にちゃんねるの住人以外の人々にとって、『電車男』は単なる面白いストーリーに過ぎない。

『実録鬼嫁日記』などのブログ本に関しては、触れた多くの人々にとって、作者や物語の作られ方はもはやどうでもいい話である。電車男のストーリー作りに参加した2ちゃんねるの住人以外の人々にとって、『電車男』は単なる面白いストーリーに過ぎない。

このような問題さえ発生しない。あれがうけたのは、ひとえに「ネタの面白さ」に起因している。ノンフィクションであるとか自伝が持つリアル感を好む人たちがいる、というのと同じレベルの話である。『DeepLove』や内藤みかの一連の作品など、携帯電話を主要なメディアとして発表する形式の作品にしても、そこに携帯電話をキャリアにすることならではの特徴は見られない。一話が短い、内容や描写が過激であるという特徴はあっても、根本的には雑誌の連載と何ら変わるところがない。

むしろ面白いのは、これらのネット発の物語が全て書籍化されているという現実である。作品にとっての最終到達地点は、今のところ「書籍」という形で固定化されるところにある。これは作家にとっても、読者にとっても、やはり「書籍」という概念の持つ威力が絶対であるということを意味している。この絶対性が崩れない限り、人々の読書活動や書籍に対する概念は変化しないものと思われる。（図書館情報・講師、メディア分析）

新鮮な出会い視野も広がる

丸尾育子（社会3年）

アルバイトは何のためにするのだろうか。もちろんお金を稼ぐためにするのがアルバイトだが、得られるものはそれだけではない。社会人としての物腰や言葉、働くという経験自体もアルバイトによって得ることができる。しかし私がアルバイトで得た一番大きなものは、人との出会いだろう。大学生活だけでは出会うことのない人とアルバイトでは出会える。

大学1年の秋から1年半ほど勤めた某ドーナッショップでは、フリーターや、高卒でそのドーナツ屋に就職した人と出会うことができた。進学校に通い、周りの友人全てが大学を目指している環境で生きていた私にとっては新鮮な出会いだった。高校を卒業してすぐ社会に飛び込んだ彼女たちと話すのは面白く、仕事の合間に苦労話や恋愛観・結婚観など様々な話をした。ドーナツショップのアルバイトはもう辞め、連絡をとることもなくなった。だが、今年の私の誕生日にはそのとき出会った1人からメールが届いた。

また、最近は交通量調査の短期アルバイトを経験した。2日間の非常に短いアルバイトだったが、そこでも人との出会いがあった。そこで一緒に働いたのは、定年を迎えた60代の男性と、茨城県内の私大に通う男性だった。交通量調査では、歩道の隅にテーブルの構え、休憩を挟みながら一日中座って車や歩行者の数を数える。長時間2人ずつ隣に座って作業をするので、会話をすることとなる。日ごろ筑波大生としか接点がない私にとって、そこでの会話は視野を広げるものとなった。何より楽しみながらアルバイトができた。2日間を終え、60代の男性が「じゃあ、またいつかどこかで会いましょう」と笑顔で手を振ってくれた。その人と会うことはおそらくないだろう。でもその言葉がとても嬉しかった。

アルバイトを通して今まで様々な人と出会った。これからも、人との出会いを楽しみにしていくと思う。

留学生の目

ジェイド・ロウ

日本人との買い物が夢

日本を初めて訪れる旅行者の多くがそうであるように、成田に足を踏み入れた瞬間、五感を通して様々な思いに襲われた。限られた日本語で話し、読んだ。そして米国市民としての私の古い人生は終わったことを悟った。人混みの中に足を踏み出し、乗ってきた飛行機に別れを告げた。私とカリフォルニアをつなぐものはなくなった。

新しい生活は恐怖と驚きの連続だったが、すっかり魅了された。握りこぶしと同じ大きさの蛾を見たとき、「今ならモスラを理解できるなあ」と思った。巨大な地震が起こっても先生が平然と授業を続けたとき、ある留学生の友人は「避難しないの？」と悲鳴を上げながら逃げていった。別の留学生の友人は、ベジタリアンは豚肉もシーフードも含めて全ての肉を食べないのだということを説明するのに苦労した。

太鼓の練習に奮闘したり、またその説明の日本語が3分の1程度しか理解できなかったりした。初めて散歩をしたとき、建築物に漂う美学に感動した。私の国では野暮ったく汚いだけのマンホールにまで、桜の花が刻まれていたのだ。

周りの人の温かさにも恵まれた。見知らぬ人の親切や、私のブロークンな日本語を聞いてくれる辛抱強さに触れて、もっとがんばろうと思った。店員やウェイトレスはもちろんとても礼儀正しいが、日本人の友達も同じだ。

でも残念なことに、日本人の友達は故郷の友達と同じくらいに親しくはなれていない。私は12月の第一週にはたった4カ月の滞在を終えて帰国するが、まだ日本人の友達と買い物に行ったり飲みに行ったりしたことがない。日本流の誘い方が分からないので、遊びに行こうと無遠慮に誘うことができないのだ。

一度だけ挑戦してみたが、悲惨だった。「えっと、買い物したことがありますか」。彼女は私をじっと見てゆっくりと答えた。「うん、あります」。青かった私の顔は赤に変わった。私は何も言わずに立ち去ってしまった。あーあ、まあいいか。日本人の生活を体験しようにも、短い期間では外国人と受け入れる側の国の人は分断されてしまう。留学生ばかりが住む宿舎という環境や、言語の壁なども障害だ。こうなったら、いつかこの魅力的な国をもう一度訪れて、そのときには私と一緒に買い物に行きたいと言ってくれる人がいるのかどうか、見に来る日を夢見るしかない。（アメリカ・比較文化学類特別聴講学生、日本語訳＝伊木緑・国際総合学類）

次号のテーマは　正月の過ごし方　です

連絡先　TEL　029・853・6699　e-mail　shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

『三浦綾子――人と文学』

岡野さん 2冊目を出版

人となり重視して執筆

年表、参考文献目録を充実

図書館情報メディア研究科3年の岡野裕行さんが『三浦綾子――人と文学』（勉誠出版・2000円）を出版した。初版は2000部。学内の丸善などでも、手に取ることができる。岡野さんは、2年前にも『三浦綾子 書誌』（勉誠出版・5250円）を出版しており、学生ながら2冊の著作を持つ院生評論家となった。

自著を手にとる岡野さん（黒古教授の研究室で）

今回の著作は勉誠出版の「日本の作家100人」シリーズの一冊。紫式部から現代作家までを取り上げた幅広い評伝シリーズで、岡野さんは「氷点」、「塩狩峠」などで知られるクリスチャン作家・三浦綾子を担当した。

岡野さんは同書の中で、作品論よりも、作家の人となりなど作家論を重視している。巻末の年表、参考文献目録が充実しているのも特徴だ。同研究科では近現代の文学と図書館学を研究している。「文学だけをやっている人とは、作品の見え方が違う」と話す。03年4月に『三浦綾子 書誌』を執筆した。それまで三浦綾子の本格的な書誌がなかったためだ。三浦綾子の書誌を研究した修士論文を元にした。書誌学の専門家から高い評価を得た。

執筆にあたって、三浦綾子についての著書を持つ黒古一夫教授（図書館情報）から指導を受けた。黒古教授は「世に出しても恥ずかしくない出来だ」と話した。

ノーベル物理学賞 アブリコソフ氏

名誉博士号を授与

固体物理学研究に影響

03年に超伝導の研究でノーベル物理学賞を受賞した米国アルゴンヌ国立研究所特認科学者、アレクセイ・アブリコソフ氏を招き、10月13日、本学名誉博士号を授与した。同氏は大学会館ホールで行われた授与式の後、記念講演を行った。学生、教員ら600人が訪れた。

岩崎学長から学位を受け取るアブリコソフ氏（左、大学会館ホール）

同氏は、超伝導におけるギンツブルグランダウ理論による先駆的な業績で著名なロシアの理論物理学者。03年に「超伝導と超流動の理論に関する先駆的貢献」によりノーベル物理学賞を受賞した。

13日の授与式で、同氏の業績は、本学が力を入れている固体物理学分野の研究に大きな影響を与えたとして名誉博士号が授与された。自身も物理学者である岩崎洋一学長から学位を授与された同氏は、「素晴しい栄誉だ」と、予定外のスピーチをした。14日は、中嶋貞雄東京大学名誉教授など国内外から招いた超伝導に関する一流研究者6人が同氏を囲み、記念懇談会を行った。

ミトコンドリア病 受精卵遺伝子治療

林教授 動物実験に成功

世界初 人体に応用も

ミトコンドリアの呼吸機能が低下して起こるミトコンドリア病の受精卵遺伝子治療を林純一教授（生命環境）らの研究グループがマウスを使って成功させた。動物実験に成功したのは世界で初めてで人体への応用が期待される。11月7日に米科学専門誌「米国科学アカデミー紀要」で発表した。

ミトコンドリア病はミトコンドリアゲノム（mtDNA）の突然変異によって起こる遺伝疾患で母親から子供に確実に遺伝する。10万人に一人の確率で発症すると言われ、運動障害や、腎疾患などを引き起こす。

実験では約10匹のミトコンドリア病にかかったマウスから39個の受精卵を摘出。突然変異型mtDNAをもつ受精卵の核を、正常なマウスの除核卵に移植し、受精卵遺伝子治療を行った。

核移植受精卵を2匹の仮親マウスに人工着床させたところ、11匹のマウスが生まれた。突然変異mtDNAはほとんど取り除かれ、寿命までミトコンドリア病を発症しなかった

情報知識学会

石川さん 論文賞を受賞

特許文献の因果関係を抽出

石川 大介さん

図書館情報メディア研究科の石川大介さん（4年）を筆頭著者とする論文が、5月に開かれた情報知識学会で2005年度論文賞を受賞した。論文を指導した石塚英弘教授によれば「博士課程の学生が論文賞を取るのは珍しい」という。

受賞論文は、「情報学会誌」（04年9月発行）の第14巻4号に掲載された「特許文献における因果関係の抽出と統合」。共著者は石塚教授、宇陀則彦助教授、藤原譲・名誉教授。

石川さんは、繊維工学分野の特許文献から、特に化合物とその性質に注目し、特定の文型パターンと用語リストを用いて因果関係を抽出した。石川さんは02年から研究を始め、04年4月に、同学会に提出した。

石川さんは、今回が初めての論文執筆だった。研究分野は図書館学と人工知能で、コンピュータにアイデアを出させる方法の研究を進めている。

秋の叙勲

本学から2人

政府は11月3日、今年度の秋の叙勲受章者4028人を発表し、本学関係者からは柳沼重剛名誉教授が瑞宝中綬章を、東京教育大卒の小野喬氏が旭日中綬章を受章した。

柳沼名誉教授は1955年東京大学大学院文学研究科卒。67年東海大教授などを経て、76年本学教授。専門は古代ギリシア文学史。

小野氏は54年体育学部を卒業。メルボルン五輪で、日本体操界初の金メダルを獲得した。金7個、銀9個、銅5個は、日本人最多。日本体操協会顧問。

原点 GEN-TEN

影響受けた偶然と環境

柔軟で批判的な視点を

私の現在の専攻分野へのあゆみをふり返ってみると、多くの偶然と時代環境に影響されてきたと思う。1964年、高校2年の秋、東京オリンピックが開催された。東京の都市形成にとっての象徴的なプロジェクトであった。同時期、東海道新幹線、東名高速道路が開業した。時代は高度成長期のまっただ中で、都市の開発が進歩、希望と重なるように思え、将来、こういった分野の仕事に就きたいものだと思ったものだ。

大学に入り、2年生の後半から都市計画を専攻する学科に進学することとなった。ところが、3年になった1968年の夏以降、大学は騒然たる「闘争」の場となり、そ

大村 謙二郎

社会のあり方について議論したり、行動に参加したことは、その後の都市計画を考える上で大きな糧となった。都市計画が建築、土木施設などの空間構築の工学にとどまらず、政治、社会、経済とに、必死で資料、文献を読んだり先輩に教えを受けるという、自転車操業の日々であったが、日本の都市計画とは何であろうかと、もやもやした気持ちを持った。何とか、海外で都市計画を勉強できないかと留学の途を探った。いろいろな偶然の重なりでドイツに留学を得る機会を得た。約2年の滞在で、ドイツの都市計画について、あまり深い理解は得られなかったが、日本とドイツの都市計画の共通性、異質性を複眼的な視点で捉えることの大切さを学んだ。

日本に戻り、大学に助手の席を得ることができた。遅々たるあゆみであったが、ドイツ近代都市計画はどのような個性的存在として理解できるのかという研究を進め、一応のまとめを得て、ようやく、研究者のスタート地点にたった。

日本の都市をめぐる状況はめまぐるしく変化している。成長拡大から、成熟、縮小を前提とした都市・地域の整備を考える時代に入っている。様々な国、地域の個性を尊重しながら比較的、複眼的な視点で都市計画を考える立場がますます必要と考えている。通説や時代の風潮を軽信せず、柔軟で批判的な視点で物事を捉えることの大切さを自戒している。

おおむら・けんじろう

システム情報工学研究科教授。1947年生まれ。建設省建築研究所都市開発研究室長などを経て94年から本学教授。専門は都市計画、土地利用計画、計画制度。

私の一冊

日常を量子力学で説く

量子力学と私

朝永振一郎著

筑波大学に籍をおく人で朝永振一郎博士の名を知らない人はいないと思います。もしご存知でなかったら、大学会館の朝永記念室をいちどお訪ねください。

相対論と量子力学は近代物理学の基礎をなすという点で、二十世紀に人類が獲得した英知のなかでも特筆すべきものと考えます。朝永博士の物理学における業績は多岐にわたりますが、電子と光子のふるまいを相対論と量子力学を融合して正しく記述する理論である量子電気力学の構築に対する寄与、特に「くりこみ理論」については、1965年のノーベル物理学賞の対象となっています。

受川 史彦

量子力学も相対論も、そこで扱われている概念が、われわれが日常の経験から得る直感に反するものであるという特徴があります。十九世紀までの物理学では、粒子（たとえば電子）と波（たとえば光）とはまったく別のものです。あるいは、物体の運動について、場所Aから場所Bにこれこれの経路を通っていったという言い方（たとえばるまいます。また、素粒子のAからBへの経路について、われわれがそれを見ていないならば、素粒子は特定の経路を持っていないことがわかります。さらに、この電子とあの電子とはどうやっても区別ができません。

ここまで読んで興味を持った方、あるいはなんだそれと思った方は、ぜひ「量子力学と私」を手にとってください。そして「光子の裁判」と「素粒子は粒子であるか」という文章から読んでください。本書の解説にあるように、「この本を読むのに、量子力学の知識は必要か？ そんなことはないと思（う）」います。我々が日ごろ利用する技術の多くも、元をたどればその基礎理論は量子力学にあります。本書により誰でもその基本概念の本質に近づけるのは幸いです。

来年は、朝永博士の生誕百周年にあたります。この機会に、本学にゆかりの深い、偉大なる先達の言葉に耳を傾けてみようではありませんか。（岩波文庫・903円）（物理学専攻・教授）

松井選手の打ったボールが高い弧を描いて右翼席に達した）には、何の問題もありません。しかしながら、量子力学においては、これらの記述は必ずしも正しくはありません。電子・光子などのいわゆる素粒子は、あるときは粒子のように、別のときは波のように、ふ

億単位の清掃費にびっくり

秋になると松美池が紅葉を映し出す。本学には、春日、追越、天久保、中央、兵太郎と6つの大きな池があり、四季ごとに美しい姿を見せる。一方で、「汚れている」という声も挙がる。池にはどのような秘密が隠されているのだろうか――。歴史、魅力、問題などを取材した。

なお、第三学群棟と第三学群棟間の池は「中央池」と表記する。（本紙・平野奈央＝比較文化学類、城下めい子＝日本語・日本文化学類、石川瀬里＝国際総合学類）

紅葉が美しい松美池。水面から投げ込まれたいすの脚がでている

池の歴史

景観に変化をつける

東京キャンパス（東京・文京区）から筑波キャンパスへの移転計画が立てられたのは42年前の63年。敷地予定地は凹凸のほとんどない、真っ平らな土地だったという。今では季節ごとに豊かな景観を見せてくれる6つの池も、農業ため池の松見池（現在の松美池）と追越池の2つしかなかった。

「池を掘った土で山をつくり、景観に変化を持たせたかった」。池の造成計画に携わった土肥博至・本学名誉教授（現・神戸芸術工科大学長）は語る。池は雨水の貯水や洪水調整、時には防火用水として利用される。施設環境課の佐藤辰彦さんは「災害などもしもの場合、非常用の水として使用する可能性もある」という。

谷津田（やつた）と呼ばれる低湿地帯を活用し、天久保、春日、兵太郎池を造成した。「多くの人に、ボートや釣りなど様々なことに利用してもらおう」と、松美、追越池の面積を広げた。池の名前は旧地名にちなんで命名した。

湿地には建物が建てにくく、埋め立て費用もかさむ。佐藤さんは「液状化現象を防止する意味もあったのではないか」と当時の様子を推察する。地形学を専門とする松倉公憲教授（生命環境）は「学園都市のある場所は、湖だった。そのため敷地予定地には粘土質な土地が多く、谷津田が点在していたのだろう」という。

中央池の水は噴水によって供給される。水は中水を利用している。実験排水処理施設で塩素消毒し、トイレ洗浄水など学内に配給される水だ。

開学から32年経った今も天久保池や兵太郎池で、釣りを楽しむ人やカヌーを漕ぐ学生を見かける。一方で、2003年には天久保池の一部を埋め立て、総合研究棟Dを建設した。佐藤さんは「池も少しずつ変わってきている」と話している。

予算確保が実施の鍵

清掃方法

中に入って、熊手で藻や落ち葉をかき集める。縁にたまったゴミ袋や沈殿した空き缶は網ですくい上げる。施設部は毎年1回か2回、中央池の清掃を行っている。9月には、職員と学内の他の施設管理を代行する国際サービス（本社＝神奈川県横浜市）からのボランティア約70人が、2時間かけて中央池を清掃した＝写真。

「ヘドロがたまると噴水の高さが低くなる。それが清掃の目安」。中央池は、噴水のある上池と下池に分ける。施設環境課の佐藤さんは「一度に水を抜いたら、魚やザリガニが死んでしまう」という。2回に分けて水を抜き、壁面にへばり付いた水草を除去し、底にたまった藻やヘドロはバキュームカーで吸い上げる。池のゴミは産業廃棄物扱いのため、廃棄は業者に委託する。1回につき費用は300万円ほど。

松美池の清掃は、専門業者に委託して、年1回行っている。専用のクレーン車でかき集めた泥は、干して水分量を減らしてから廃棄処分する。1回のしゅんせつ作業には約8千万円かかるため、毎年予算確保に一苦労する。

全池のしゅんせつ作業を行うと、億単位の予算が必要になるという。兵太郎池には1億円1千万円、天久保池は1億円、春日池は2千500万円ほどかかる計算だ。佐藤さんは「予算の問題から、定期清掃はこれ以上増やせない。他の池で実施する余裕もない」とぼやく。

大学説明会前や自然災害後は、同部職員が清掃する。佐藤さんは「落葉の増えるこれからが大変」と話す。

学生と教職員が協力

学内清掃を目的としたクリーンデーは、総務課が年に1回実施するよう各支援室に呼びかけている。ごみ拾いや除草作業などが主な活動だ。システム情報等工学支援室はこれに積極的に参加している。

今年度は、「悪臭がひどい」と苦情が寄せられた中央池を中心に、自主的に2回のクリーンデーを実施。7月21日の第一回目では学生75人、教職員110人の合わせて185人が参加。中央池のヘドロ撤去などを行った。10月27日には、ペデ周辺の草刈りなどを行った。学生40人、教職員80人合計120人が参加するなど意欲的な姿勢が目立つ。

国際総合学類も独自にクリーンデーを実施している。フレッシュマンセミナーの一環として、主に1年生とクラス担任がK棟周辺の除草作業を行った。

学生担当教員の中村逸郎助教授（人文社会）は「自分たちが使う場所だからこそ、学生も教員も積極的に参加している。全学類で行っていると思っていた」と話していた。

中央池や松美池で、作業着を着て網を片手に水面のゴミをすくう職員の姿を見かけることが多くなるだろう。施設部は中央池清掃にあたって、学生・教職員の参加をポスターで呼びかけている。以前、第三学群の学生から「池の掃除をしたい」と問い合わせがあった。だがゴミ処理方法がネックとなって、学生だけによる清掃は許可されなかった。

一方で、佐藤さんによると「今まで、呼びかけに応じた学生はいない」。「機会があれば、積極的に参加して欲しい」と話している。

「消える可能性も」

松美下池

松美下池は自然保護地区に指定されている。人の手を加えないようにしてきたが、いま、池の存続が危惧されている。松美池の生態について研究している福田朱里さん（生命環境科学研究科5年）は「このままでは池の水がなくなってしまうかもしれない」と危惧している。

「池に生い茂っているガマが増えすぎて、悪影響を与えている」と福田さんは指摘する。ガマは高さ2㍍程の水生植物で、冬に枯れて池に倒れ落ちる。落ちたガマは池の底に溜まってヘドロになる。最近では水深が浅くなり、水辺に陸生植物まで生えるようになった。「年々池の面積が狭まっており、ガマなどの植物がせまってきている」と福田さん。ヘドロは悪臭の原因にもなる。

雨が降ると、道路から菓子袋やペットボトルなどのゴミが流れてくる。だが、今まで松美下池や付近の清掃が行われたことはない。植物も野放し状態だ。福田さんは「保護区域になっているが全く手を入れないのも問題ではないか」と考えている。

現在本学で松美池の研究をしているのは、福田さんただ一人。卒業後、研究を引き継ぐ後継者はいない。「そのうち雨が降った時だけに現れる池になるのではないか」と心配している。

中央池に人工滝

幻の池

本学の象徴としてキャンパスを飾る滝、そして、来客を出迎える日本庭園――。開学時にあった学内自然環境デザインは、こんな計画を持っていたが、ついに建造されることはなかった。31年たったいまでも、「幻の池」計画の一端をうかがうことができる。

滝の予定地は、学生の安らぎの場となっている石の広場横の芝生。幅50㍍、落差7㍍の滝が構想されていた。計画によると、壁泉という壁に沿って水が流れる人工滝。動きのある池をイメージし、幾重にも水の流れが重なる仕組みになっていた。

実現していれば、本学の象徴として一役買っていただろう。「予算が確保できなかった。残念だ」と設計した土肥名誉教授はいう。滝に代わって噴水が設置された。施設部の佐藤さんは「滝が出来ていたら、より自然に水の循環ができたのだが」と話す。

あまり知られていない池もある。開学記念館の隣にある占春池だ。現在、池はガマなどの水生植物が生い茂り、一見わからない。奥まで入ると池の姿が見え、魚が泳いでいるのがわかる。施設部の報告書に名前と存在が記されているが、その読み方を知っている職員すらいない。土肥名誉教授によると、名付け親は建築家としても知られた故・吉武泰水初代施設担当副学長だったという。

当初の計画では、開学記念館の北側に和風建築のゲストハウスや茶室などを建て、日本庭園を造る予定だった。その一つとして池が造られた。だがゲストハウス予定地は空き地になり、池も放置されている。

池の存在を知る人は少ない（開学記念館横で）

学内の池を探索

天久保池でカヌーを漕ぐ学生。体育で池を利用する授業もあるという。釣りやボート、バードウォッチングなどを楽しむ人を見かけることもある（天久保池で）

飛び込みはキケン
松美池で清掃員死亡

松美池には、飲み会で酔った学生が飛び込むことがある。4月の新入生歓迎コンパや夏など、池の畔で宴会を開く姿を多く見かける。だが安易に飛び込むのは危険と、本学に20年近く務める掃除のおばさんは、7年前に起きた同僚の事故を振り返る。おばさんに当時の話を聞いた。

1998年4月21日、松美池の東側、ループ沿いの水辺で清掃員の石田さん（当時61歳）が水死した。タラの芽をとっていて、足を滑らせ、頭から池に転落したためだ。

頭部がヘドロに埋まってしまい、引き抜けなくなった。通りがかった学生が、水面で足をばたつかせる様子に気がついた。急いで駆けつけたが、間に合わなかったという。当時から松美池にはヘドロが堆積しており、現在その深さは1㍍から1㍍50㌢になる。

松美池周辺の林では、きのこや山菜が良く採れるという。付近の住民や清掃員が袋いっぱいにきのこを詰めて持ち歩く姿を見かけることも多い。

おばさんは「水辺はすべりやすいから気をつけている。まだ若かったのに残念だった」と語った。

魚が約100匹突然死
噴水新設で問題解決

中央池では、1988年10月24日、約100匹の魚が突然死する事件が発生した。魚はその日のうちに焼却処分され、施設部環境保全課が原因調査を始めた。

大量死は、補給水によって池の塩素濃度が極端に高くなったことが原因と判明した。池の補給水には、実験廃水処理施設で塩素消毒された「中水」と呼ばれる水を利用している。池の水位が下がって塩素濃度が高くなりすぎないようにするためだ。事件発生の前に誰かが池の底の栓を抜いて排水し、補給水を入れてしまったのではないかと考えられている。

事件後は、濃度を自動調整する噴水を第3学群K棟前に設置した。施設部の佐藤さんは「噴水で塩素を飛ばして供給するため、もう魚が死ぬことはないだろう」と話している。

カルガモの観察を楽しむ野生動物研究会のメンバー（兵太郎池で）

楽しむ
様々な生き物に出会える

「学内の池で、最も魚の種類が豊富なのは天久保池だ」と元野生動物研究会の諸澤崇裕さん（資源4年）は教えてくれた。日中、チドリやサギ、カルガモの親子が羽を休める姿を見ることができる。休日には、学外から小・中学生や親子連れが釣りを楽しみに来る。

天久保池にはヌマチチブ、ヨシノボリ、雷魚など約8種類が生息している。ほとんどが外来種だ。「早朝5時くらいには釣り人が集まる人気スポット」（諸澤さん）。釣った魚は食べることもできる。

兵太郎池に生息するのはコイ、ブラックバス、ブルーギルなど約6種類。水草が多いため、卵を産み付けたり、外敵から身を隠す事ができる。「活きの良い魚が多い」という。また日の出とともに開花する水面いっぱいのスイレンは、夏の訪れを知らせてくれる。

魚だけでなく、水辺には餌を求めて様々な生き物が集まる。夏の中央池にはアオサギ、ダイサギなどがやってくる。池の近くにザリガニの殻がごろごろ落ちているのは「サギが食べたせいなんです」。

12月ごろになると、羽の美しさから「青い宝石」と例えられるカワセミのつがいが天久保池を飛び回る。春の繁殖期に向けて、仲良く飛ぶ姿が印象的だ。

広葉樹が生い茂る春日池では、タヌキがひょっこり顔を出すことも。松美下池では長いしっぽを持つハクビシンを見たこともある。

本学の池に住む生き物のほとんどが、誰かが持ち込んだ外来種だ。諸澤さんは「人工池だが、様々な国から来た生物が生息している。まるで小さな水族館」。

大学に生息する様々な生き物たち。秋は紅葉が美しい松美池がおすすめだという。少し歩を休めて観察すれば、意外なものに出会えるだろう。

HELLO! 先端科学

ピロリ菌退治
ブロッコリーに殺菌作用
一日30グラム摂取で予防

レストランや家庭でお皿の片隅に彩りを添えるブロッコリー。一個でわずか30グラム。その一口の量で胃がん予防に効果があることが解明された。谷中昭典講師（人間総合・消化器内科）はブロッコリーの新芽に胃がんの原因とされる「ヘリコバクター・ピロリ菌」を殺傷し、炎症を抑える効果があることを突き止めた。11月2日、がん研究の最高峰、米国がん学会主催の国際会議で発表された。

日本人の2人に1人はピロリ菌に感染している。そのうち発症するのは5パーセントの300万人だが、ピロリ菌がいなければ発症しない。この発見によりバリー・マーシャル教授は今年ノーベル医学生理学賞を受賞した。

治療法としては抗生物質投与が一般的だ。出血や下痢などの副作用がある上、別の細菌に抗生物質への耐性を作らせてしまう恐れがある。肺炎の原因菌は、2割の確率で耐性ができるとされる。

「がんを発症させないかもしれないピロリ菌のために耐性菌を作るわけにはいかない」と谷中講師は考える。

そこで目をつけたのがブロッコリーの新芽による食餌療法だ。ブロッコリーの新芽には「スルフォラファン」という抗酸化物質が多く含まれる。これは、ピロリ菌を殺菌する作用があることを、本学の山本雅之教授（人間総合）が米国の科学者との共同研究で発見しており、谷中講師が実践へ移す形となった。

谷中講師はピロリ菌に感染している患者50人を2つのグループに分け、それぞれブロッコリーの新芽ともやしを100グラムずつ8週間毎日摂取してもらった。新芽ともやしの成分はほぼ一緒だが、新芽には「スルフォラファン」が多く含まれている。実験前後のピロリ菌の数および胃炎の程度を比較すると、新芽を摂取した患者だけがピロリ菌が減少し炎症も軽減した。

植物に含まれる栄養素は成長とともに失われていくものが多い。種子の状態では栄養素が吸収されにくいため、新芽の状態で食べるのがよいという。ブロッコリーの場合、新芽を30グラム摂取すれば、予防に必要な2日分の量が供給できる。これは成長したブロッコリーの3キロ分に当たる。

「食餌療法ならば副作用もない。治療法としてまだまだ開拓されるべき分野」と谷中講師は話す。

ブロッコリーの食べ方のすすめは「生でよく噛んで食べる」こと。噛むことで「スルフォラファン」が活性化されるのと、熱を通すと吸収率が3分の1になるからだそうだ。

（本紙・沖浦裕明＝比較文化学類）

噛むとほろ苦いブロッコリーの新芽

卒業生からの手紙
「面白い」舞台を企画
サークル経験活かす

私はホリプロという会社で舞台の企画制作の仕事をしています。大学在学中は芸術専門学群で作品を作りつつ、ELL（筑波軽音楽協会）でバンド活動をしていました。2年の時にちょっとしたきっかけでサークルの会長になりました。今思えば、それが大きな転機でした。バスセンターで宣伝イベントをしたり、立体看板を作ったり、様々なライブを試みました。

運営メンバー8人は音響・照明・会場・会計・宣伝などそれぞれ役割があったのですが、「こういうライブがあったら面白いんじゃない？」と夜中までよく語り合いました。失敗もありましたが、皆でひとつの作品を作り上げる喜びを知りました。

就職活動を始めたのは3年の終わりでした。何もわからなかったので色々な人を訪ねました。説明会より直接話しを聞きたくてインターネットで調べた面白そうな会社に電話をして、話を聞きました。話すことで自分の適性や、やりたいことが見えたような気がします。

「舞台を作りたい、人を喜ばせる仕事がしたい」と確信がもてた時、ホリプロを受けました。ホリプロはプロダクションというイメージがあるかと思いますが、テレビの番組制作・音楽・演劇公演の制作など色々なエンターテイメントがあります。舞台の企画制作という仕事を簡単に説明すると、例えば1冊の面白い本があって、「これを舞台にしてみよう」ということになる。演出、舞台セットのデザイン、照明、俳優さんは誰に依頼するか――に始まって、予算や宣伝を考えます。

興業的に公演を成功させ、利益を上げつつ、お客さんに喜んでもらえるように作品を作っていきます。稽古に立会い、公演中は劇場に通い、地方公演にも行きます。ひとつの舞台が生まれてから終わるまで責任をもって成功させるのが仕事です。

たくさんの人が関わってひとつの舞台を作り上げる訳ですから、色々大変です。でもだからこそ面白い。私の原点はELLで小さなライブをみんなで作り上げた、あの喜びにあるのです。

（平成14年度芸術専門学群卒）

吉永千紘さん

茗渓山脈 体育・スポーツ列伝

野口源三郎

箱根駅伝の生みの親 五輪金の織田育てる

オリンピックで他国の選手と対等に渡り合える長距離ランナーを育てるためにはどうすればいいのか――。1919年、「マラソンの父」金栗四三を中心に、大学駅伝の構想が話し合われた。上野発の列車内だった。「耐寒マラソンは古い」「日本は走り尽くした」と意見が飛び交う。「アメリカ大陸横断はどうか……」。提案したのは本学の前身校東京教育大第2代学長を務め、「陸上競技界の父」と親しまれた野口源三郎だった。

幼少の頃からテニスや剣道に励んだ。陸上競技で頭角を現したのは東京高等師範入学後、23歳の時だ。嘉納治五郎高師学校長（当時）の勧めで

第44回箱根駅伝を訪れた野口（東京・大手町で）

マラソンを始めた。「金栗選手が初のオリンピアンになり、陸上への意欲が湧いた」（『長野県体育史』）と振り返る。

高師卒業後、松本中学（長野県松本市）に赴任し、体育主任教員として陸上競技部を創設した。米コロンビア大の競技指導者ミシェル・マーフィーの「陸上競技の練習法」を片手に、生徒たちと練習に明け暮れる。日が沈んでも運動場に残り、「実践し指導する喜びを知った」。

痛めて12位に終わった。以後、競技指導者としての道を歩む。全国各地で講演会や実技指導会を実施し、熱弁を振るった。

28年のアムステルダム五輪（オランダ）で日本人初の金メダリストが誕生した。陸上3段跳びの織田幹雄だ。織田は3段跳びを始めたきっかけを「講習会で野口先生にほめられて興味が湧いたから」と語っている。

より良い体育教育法を模索し、フランスやアメリカなどに足を伸ばしている。本学からは04年、鐘ケ江幸雄さん（平成16年度工学システム学類卒）が日本学連選抜として出場し、初の金栗四三賞を受賞した。

「その豊かな表現力は読者を奮い立たせる」（浅川）。駅伝には毎年、ランナーの勇姿を一目見ようと全国から観客が沿道に駆けつける。野口の夢は今もなお、見る人の心を躍らせる。（本紙・平野奈央＝比較文化学類）

選手時代の野口（『オリンピックの実際』より）

全日本学生柔道体重別団体優勝大会

無念の4回戦敗退

秋本 肩固めで一本勝ち

柔道

大学の総合力を争う第7回全日本学生柔道体重別団体優勝大会が11月5、6の両日、兵庫県の尼崎市記念公園総合体育館で行われた。1チーム7人で対戦し、全国から予選を勝ち抜いてきた49校が大学日本一を争う。本学チームは4回戦で、東海大に3勝4敗で敗れ、昨年に引き続き8強に甘んじた。

本学は昨年も4回戦で東海大に敗れ、涙をのんでいる。拓殖大を全勝で下して、東海大戦にのぞんだ岡田弘隆監督（人間総合・講師）は「実力は拮抗し、ほぼ五分。最初に試合の流れを一気にもっていけるか、どうかが鍵」と語った。

3回戦全勝の勢いをそのまま持っていきたい本学は、先鋒戦で66キロ級横口大志（体育3年）が激しい闘志をみせたが、残り1分59秒に大外刈りを決められ一本負け。続く90キロ級竹澤稔裕（同4年）は優勢勝ちをおさめたものの、三鋒・100キロ級山田恒平（同4年）が背負い投げ、中堅100キロ超級加藤光将（同4年）が内股でそれぞれ一本負けを喫し、東海大に王手がかかった。

主導権を奪還したい三将戦、60キロ級平岡拓晃（同3年）が出場した。大会2週間前に肉離れをおこし、出場が危ぶまれていたが、監督にやる気を訴えて出場。「昨年、先鋒をつとめて敗れた雪辱をはらしたかった」と試合後に話す平岡は、貴重な優勢勝ちをおさめた。

これを機に有利な状態で大将の66キロ級秋本啓之（体育2年）につなげていきたいところだったが、副将の81キロ級法兼真（体育3年）が優勢負けを喫した。この時点で2勝4敗、本学の負けが確定した。秋本は大将戦、肩固めで一本勝ちをおさめた。

試合後、三鋒を務めた山田は、「東海大は強かったが、やれるだけのことはやった。ただ、普段の力をコンスタントに発揮できず、かみ合わせることが出来なかった」と話した。岡田監督は、「力は拮抗していても、少しのきっかけで流れが変わってしまう。ただそれだけのことだ」と話した。今後は、19、20日の講道館杯へ向けてコンディションを整えていく。岡田監督は「地力をもう一段階高めたい」と語っている。

3回戦で拓殖大の西森と対戦する中原。このあと、背負い投げで一本勝ちした（尼崎記念公園総合体育館で）

第6回国際合気道競技大会

留学生ニース

日本代表として出場

乱取り競技でベスト8入り

世界各国の愛好者が集まる第6回国際合気道競技大会（主催＝日本合気道協会）が、10月7日から10日まで日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で開催された。女子乱取競技で競技合気道クラブのケート・ニース（生命環境科学研究科・オーストラリア）がベスト8に入った。

同大会は2年に一度、合気道愛好者が集まり、競技を発展させるために行われる。今大会は14カ国から約350人が参加した。ニースは関東社会人代表として出場した。女子日本代表選手の中で外国人選手はニース一人だった。

試合は、技のポイントで争われる。イギリス人のルディビン・レチンと対戦した一回戦。ニースにとって日本人以外の選手とは初めての試合だ。「日本人選手よりパワフルでびっくりした」とニース。得意とする脇固めを決め、技を駆使して勝利した。

その後も順調に勝ち進んだが、4回戦で昭道館本部の山崎文加に体捌きで敗れた。「練習していた技をうまく使えなかった。相手は経験もあって強かった」と敗因を語る。

来日した3年前に合気道を始めた。合気道クラブの小野正樹講師（人文社会）から誘われたのがきっかけだった。「日本の伝統的なスポーツをやりたかった」と話す。週に3回、同クラブの部員と共に練習し、昨年7月黒帯になった。

小野講師は「誰よりも熱心に練習し、わからないことをどんどん質問する。その姿勢が彼女の強さにつながっている」と分析する。

現在は11月23日に行われる第33回関東社会人合気道競技大会に向け、基本的な形を見直すなど練習を積んでいる。ニースは「技を覚えて上達するのが楽しい。技が身に付くよう何度でも練習したい」と意欲的だ。

日本人以外と初めて対戦した一回戦（日本武道館研修センターで）

つくばスポーツ探検隊

粕尾 4重跳びを披露

一日で色々なスポーツを体験できる「つくばスポーツ探検隊 オータムフェスティバル」（主催＝アクティブつくば）が11月20日、筑波学院大学で開催される。そのプレイベントが6日、つくばセンター周辺で行われ、粕尾将一（体育2年）が縄跳びのパフォーマンスを行った。

粕尾は世界で2人しかいない6重跳びができる縄跳び名人。誰もが親しみやすい縄跳びに興味をもってもらおうと、今回抜擢された。当日は4重跳びなどを組み合わせた演技を2回にわけて披露した。珍しい縄跳びのパフォーマンスが通行人の目を引いた。また子どもと一緒に縄跳びをするなど親子連れにも人気だった。

フェスティバルはサッカーやダンス、ラグビーなどのスポーツが午前10時から午後5時まで体験できる。小学生を対象にした特別企画では、110メートル障害の五輪代表、谷川聡選手（人間総合・講師）がハードルの跳び方などを教える。縄跳び教室の講師をする粕尾は「色々な楽しみ方を教えるので、ぜひ参加してほしい」と語った。

汗だくになりながらパフォーマンスする粕尾（西武つくば店前で）

全日本学生ハンドボール選手権

男子王座を守る 女子はベスト4

ハンド

全日本学生ハンドボール選手権が11月9日、とどろきアリーナ（川崎市）で開幕し、男子は決勝で日本体育大を35―34で下し2年連続3度目の優勝を果たした。

4連覇がかかっていた女子は準決勝で武庫川女子大に23―27で敗れた。

馬術部、全日本大会初出場

平野・ブリー 有終の美

大学日本一を決める第55回日本学生馬術大会は11月2日から6日までの4日間、東京・世田谷区の馬事公苑で開かれ、本学選手2人が個人障害飛越競技に出場した。創部27年で初の快挙だ。

初出場の2人は林詩音（資源3年・サムソンビッグ号）と平野亮（体育2年・ブリー号）。平野は最後となる15個目の障害まで失敗3個でたどり着いた。だが、最終障害を前に馬がひるんで失速、障害に衝突して落馬した。林は、馬が飛越をいやがり失格に終わった。

同大会の出場資格は6月の関東学生章典での完走だ。林が「130センチのハードルを飛べる馬は強豪私立以外にいない」と語るように馬の跳躍力が決め手になる。

今年2月に入厩したブリーは140センチの跳躍力を誇る。だが18歳と高齢で脚に病気もあり、出走できるのは今年度限り。同部で唯一インターハイ出場経験を持つ平野が手綱を取って、学生章典を完走、日本学生大会初出場の夢をかなえた。

ブリーはこれで引退。来年度の同大会出場は難しくなった。林主将は「夢を見させてくれた」と話していた。

第56回関東女子学生バスケットボールリーグ

2年連続 12回目のV

桜田 最優秀選手に

好ディフェンスで日大破る

バスケ

12月に開催されるインカレの出場権を争う第55回関東女子学生バスケットボールリーグ戦が9月3日から10月16日にかけ、代々木第二体育館などで開催された。本学は13勝1敗で2年連続12回目の優勝を果たした。個人ではシューティング・ガードの桜田佳枝（体育3年）が270点を挙げて得点王となり、最優秀選手に選ばれた。

ヤマ場は10月15、16の両日、11勝1敗で迎えた全勝日体大との頂上決戦だった。本学は2連勝を収め、優勝を手にした。

ボールを支配し、自らも切り込んだ有明（10月15日、日大戦、代々木第二体育館で）

負ければ日体大の優勝が決まり、後がなかった15日、本学は堅さが目立った。序盤は雑なパスが続き攻めあぐねた。しかし中盤以降徹底したマンツーマン・ディフェンスで日体大のシュートを封じ込めた。キャプテンの加藤めぐみ（同4年）や宇佐美里菜（同）らが要所で得点を重ね、71対63で初戦をものにした。

前日とはうってかわり、16日は序盤から攻め込んだ。カット・インやミドルシュートを積極的に決め、第1ピリオドで15対10とリードを奪う。

第2ピリオド、ユニバーシアード代表、野田裕子を投入した日体大が2点差まで詰め寄る。だが、有明葵衣（＝ありあけ・あおい、同1年）が技ありのアシストと自らのカット・インで流れを引き寄せ、39対23と突き放す。

第3ピリオド、両チームとも1オン1で攻めるが決定打を欠く。好調の有明が速攻を決め、本学が優勢だったが、加藤や桜田ら主力4人が3ファウルとなり、勢いをなくした。

第4ピリオド、日体大がオールコートディフェンスを仕掛けると、本学はインサイドに切り込めない。裏をかいて桜田が3ポイントやミドルシュートを決めてだめ押し。その後は着実にボールを保持し、68対48で勝利した。

「180センチを超える日体大のディフェンス陣を封じたのが決め手」と内山治樹監督（人間総合・助教授）は話す。高さを生かし、マークの上からシュートを放つ日体大に対し、本学は終始マンツーマン・ディフェンスで挑んだ。シュート・チェックを欠かさないことで、日体大の決定率を26・3パーセントにとどめ、リーグを通して一試合70点は稼ぐ日体大オフェンスを封じ込めた。

内山監督は「学生界一のマンツーマンディフェンスとパス・アンド・ランが武器。あとはガードの判断力をさらに上げられれば」と話した。

秋季関東バレーボールリーグ

セット率勝負 女子も優勝

バレー

秋季関東バレーボールリーグ戦女子一部リーグが9月17日から10月16日まで、青山学院大学記念会館などで行われ、本学は8勝2敗でリーグを制した。男子も10月9日に優勝を決めており、1季ぶり3回目のアベック優勝を果たした。

女子最終戦の対青学戦は序盤、サーブ・レシーブのミスが目立った。青学のセンター、二川万里子らの速攻で第1セットは17―25で先取された。センター平井香菜子（体育3年）らが活躍したものの、フルセットまで持ち越された。迎えた第5セット。出だしから3点差をつけられる。レフト木村早希（同3年）らの猛攻で4点連取し12―10と巻き返すが、レシーブミスが重なり13―15で敗れた。両校は2敗で並んだが、セット率で本学が優勝した。

今年8月のユニバーシアード・イズミル（トルコ）大会にはキャプテン白丸寿美（同4年）をはじめとする主力4選手が出場した。中西康己監督（人間総合・講師）は「チームの主力が一時離脱していたため、立て直しに時間がかかった」と話す。秋季リーグ全体を通して「連携ミスが多くチームがいまひとつ。これからの課題だ」と語った。白丸は「早く自分たちのプレースタイルを安定させたい」と、12月に行われる全日本インカレに照準を合わせている。

個人賞は次の通り。最優秀選手賞＝白丸寿美▽ブロック賞＝平井香菜子（同3年）▽リベロ賞＝林蓉子（同4年）

首位打者 ベストナイン

杉山 2冠

杉山英孝

野球

首都大学野球秋季リーグが9月10日から10月24日まで平塚球場（神奈川県平塚市）などで行われ、硬式野球部の杉山英孝（体育2年）が初の首位打者を獲得、三塁手としてベストナインにも選ばれた。杉山は今季通算39打数15安打7打点、打率3割8分5厘、6盗塁した。本学は5勝8敗で5位だった。

杉山は、9月25日の日本体育大戦が今季初登場、この日2打数2安打1打点で、本学は7―5で勝利した。今季本学は、リーグ最多の通算62失点。守備の乱れから苦戦を強いられた。

秋季国体

成迫 日本歴代2位を記録

成年男子110メートル障害

大橋は悲願の初優勝

成迫健児

第60回国民体育大会「晴れの国おかやま国体」秋季大会が10月23―27日に、岡山県陸上競技場などで行われ、成年男子400メートル障害で成迫健児（体育三年）が日本歴代記録2位の48秒09で国体2連覇を果たした。成迫は26日の成年男子400メートルでも、46秒02で準優勝した。また、大橋祐二（体育4年）が110メートル障害に出場、14秒00で初優勝した。大橋は現高校記録（13秒98）保持者だが、7月の全日本インカレでは3位だった。

成迫は、23日の予選を、49秒19で突破。予選では唯一の49秒台を出した。24日の決勝は、スタート直後から1位を独走した。成迫は「今回は47秒台を狙っていたので不満。次に向けてのいいバネにしたい」と振り返った。これまで、7月の全日本インカレ、8月の世界陸上と、着実に記録を伸ばしていた。

26日の成年男子走幅跳では、藤川健司（体育4年）が2位に入賞している。

鍋山監督

茨城代表で健闘

本学男子は3回戦敗退

剣道

第53回全日本剣道選手権大会が11月3日、日本武道館（東京・千代田区）で行われ茨城代表として、男子剣道部の鍋山隆弘監督（人間総合・講師）が出場したが、2回戦で敗退。鍋山監督は、今回が10回目の出場で、全日本剣道連盟から表彰を受けた。優勝は、本学出身の原田悟（警視庁、平成7年度体育専門学群卒）だった。

2回戦では、鳥取県代表で本学出身の竹中健太郎（八頭高校教諭、平成6年同学群卒）と対戦。勝負は延長戦にもつれ込んだ。延長7分、竹中の飛び込み面で、一本負けを喫した。

鍋山監督は、今年で36歳。今大会の出場選手の中では最年長だった。

◇　◇

大学日本一をかけて戦う第53回全日本学生剣道優勝大会が10月16日、日本武道館（東京・千代田区）で行われた。男子剣道部は、3回戦で今大会の覇者・鹿屋体育大と対戦。同大は、7月の全日本学生選手権大会で優勝した芹川勝也らを擁する九州の強豪校。本学は2勝3敗2分で敗退した。

本学は先鋒の埜口義弘（体育3年）が開始1分で小手を取られるなど劣勢が続く。途中、五将の鈴木慎太郎（同4年）が開始直後に面を決めたが、三将の〆一司（同3年）が敗れた。1勝3敗1分で迎えた副将戦。鴻巣晃男（同4年）は足を滑らせたところに面を打たれ、引き分けた。この時点で本学の敗北が決まった。大将・三根祐介（同4年）は芹川に勝利したが、笑顔はなかった。

竹中の胴をねらう鍋山監督（日本武道館で）

アスト重視で勝利に導く

アイスホッケー最優秀選手 小松賢司 選手（自然4年）

アイスホッケーの顔

アイスホッケー歴18年、「ホッケーなしの生活は考えられない」という。長年の経験を生かし、チーム全体の動きを把握しつつ相手チームの隙を狙う。5―6月にかけて東大和アリーナなどで行われた関東国公立大学アイスホッケーリーグで、今季の最優秀選手に選ばれた。同リーグは、一橋大や横浜国立大など5校が加盟し、小松は今季最多の25得点を上げた。

昨年、今年と国体でも活躍した。中でも、昨年の第60回国民体育大会関東ブロック予選で小松の得点力が光った。12月18日に行われた山梨対茨城で17ゴール中6ゴール1アシストを決め、勝利に導いた。

故郷・釧路市はアイスホッケーが盛んな土地柄だ。兄の影響で小松も4歳でホッケーを始めた。兄が所属する小学校のホッケークラブで、年上の児童に混じって練習した。「めきめき上達した」と振り返る。

そのころ、相手から先取点することに面白さを覚えたが、高校2年生のときホッケーの新たな魅力に気付いた。その年、小松は地元・釧路市の選抜選手として市のロータリーカップに出場した。優勝争いは、1勝1敗得失点2点差という切迫した中で行われた。それまで緊張から堅くなっていた小松の力を引き出したのは、チームメイトの絶妙なパスやアシストだった。接戦を制し、「初めて団体競技の面白さ」に目覚めたという。

本学のアイスホッケー部には監督がいない。部員同士が、練習を厳しく律し、ベンチを温める控え選手がアドバイスを送る。小松は「言葉とプレーで手本を示す」よう努める。試合前にあった緊張もいまは無い。仲間との連携プレーも、いまやお手の物だ。

つくば市にはスケートリンクが少なく、練習は日立や東京まで出掛けなければならない。営業後の午後10時や0時からの練習だ。「深夜からの練習に違和感を感じるのも最初だけ」と話す。特異な状況も仲間と一緒なら面白い体験に変わる。練習、試合会場までは部員が車を出し合う。

10月21日の関東リーグ2部の本学対拓殖大の試合は2対1で勝利した。2点のうちの1点ではアシストを決めている。いつもはパスを受ける側なので「アシストに専念するのは珍しい」と部員は言う。

4月からは社会人チームで月2回の練習に参加する。「これからは趣味として続けたい。ホッケーは日常だから」と笑顔で語った。（本紙・吉田ちひろ＝人間学類）

ズームアップ　学内の地震対策

本学の施設　耐震性に不安
日頃からの心がけが大事

つくば市は今年に入って、2月の茨城県南部地震、4月の千葉県北東部地震、10月の茨城県沖地震など、震度3から4の揺れに見舞われている。千葉県北東部地震では、東京都内でエレベーターが止まるなど、都市の地震に対する脆さが浮き彫りになった。誕生して30年以上たった筑波研究学園都市と本学は、地震に耐えられるのか。

「つくば市は道幅が広く、木造住宅の密集地も少ないため、大規模な都市崩壊が起こるとは考えにくい」と熊谷良雄教授（システム情報工学研究科長）は話す。しかし本学の老朽化した施設には苦言を呈する。「建設省（当時）は昭和56年に建物の建築基準を改正している。それ以前に建てられた建物は耐震性に不安がある」

本学の施設は総合研究棟などの一部を除けば、ほとんどが建築基準法改正以前に建てられたものだ。仮に耐震工事をするとすれば、キャンパス全体にかかる費用は「想像もつかない」と熊谷教授。しかし実情は体育施設の改修にも手は回らないというのが現状だ。

4月の千葉県北東部地震では、東京都が職員に非常招集をかけたにもかかわらず、多くの職員が貸与されたポケベルを携帯していなかったため、登庁しないという事態が発生した。災害時、本学では職員がすぐに集まれるよう、部署ごとに連絡網を作成している。しかし熊谷教授は「2―3年で異動する職員もおり、連絡網が機能するかどうか、不安がある。非常時に連絡がまわらない可能性もある」と指摘する。

つくば中央消防署の田中守男器受課長は「筑波大キャンパスやその周辺では路上駐車や大量に駐輪された自転車が道をふさぎ、災害時に緊急車両が通行できない可能性がある」と話す。消火栓のすぐそばに駐車する学生もいて、1分1秒を争う災害時、消火活動の大きな障害になる。「マンホール型の消火栓もあり、その上に不法駐車されると、レッカー移動するか他の消火栓を探さなければならなくなる」と田中課長は駐車のマナーを問題視する。

現在、学生宿舎で静脈認証システムの運用が進んでいる。9月に行われた公聴会では、災害時の対処について不安の声が挙がった。消防署はどう対処するのか。田中課長は、「そのようなシステムが導入されるなんて聞いていない」という。通常、マンションなどにオートロックなどの設備が設置される場合、事前に消防署が点検に入る。しかし、本学の最寄りの消防署であるつくば中央消防署に連絡はなく、当然、点検も済んでいない。田中課長によると、「国立大学法人は、基本的に文部科学省の管轄。自治体や総務省の管轄である消防との間には壁がある」という。

災害時に本学の学生はどうすればよいのか。田中課長は、「まず火の元に気をつけてほしい。次に、普段から万一の場合を想定した行動を心がけて欲しい。一人一人の普段の心がけが、非常時に大きな結果となって現れる」と助言する。（本紙・斎藤竜太＝比較文化学類）

万一の時火の元をすぐに消せるか、普段の心がけが問われる（平砂宿舎11号棟補食室で）

パキスタン北部大地震

本学関係者も支援に参加
アハマドさん　救済基金設立

学祭での売上金寄付も

10月8日に発生し、マグニチュード7・7を記録、7万人を越す死者を出したパキスタン北部大地震の被災者を支援しようと、本学生や関係者も動き出した。

ジャヴェド・アハマドさん（ベンチャービジネスラボラトリー研究員）は「つくばパキスタン地震救済基金」を設立した。

10月14日から学内の掲示板など計20カ所に被災の様子を伝えるポスターを貼り、募金を呼びかけた。25日までの11日間、郵便振り込みによる寄付を求めたところ、約43万円が集まった。寄付金はパキスタン留学生協会を通じて、非政府組織エディ（EDHI）財団に寄付される。

ポスター作成に携わった桑原希さん（国際4年）は「ここまで募金が集まるとは思っていなかった。これからも支援活動に携わりたい」と話す。

寄付金を大使館員に手渡す高木さん（右側。パキスタン大使館で）

学園祭に模擬店を出店し、その売り上げを寄付した学生もいる。高木功介さん（同）ら「サロン・ド・KT」が出店した「つくBar大学」ではコーヒー約300杯分の売り上げ、4万2000円を全額パキスタン大使館に直接届けた。寄付金は、食糧や衣類の支給に使われる。昨年は新潟中越地震の被災者を助けようと新潟県防災本部に売り上げの4万3000円を寄付している。

高木さんらは昨年からタリーズコーヒージャパン株式会社（本社＝東京・港区）から豆など600食分を無料で提供してもらっている。同社の代表取締役会長、松田公太さんは平成2年の国際総合学類卒業生。先輩後輩の関係から高木さんらの活動に理解を示してくれているという。

高木さんは「金額的には多くないが、少しでも被災者の役に立てれば」と話している。

学内パトロールウォーク

約30人で学内を点検
防犯意識の向上促す

犯罪を防止し、学内の危険個所を把握するため、セーフティ・プロジェクトは11月2日午後6時から8時までの2時間、学内パトロールウォークを行った。学生8人のほか、教職員やライジングサンの警備員など約30人が3つのグループに分かれて構内を歩き、防犯意識の向上を呼びかけた。今後は12月1日から始まる安全キャンペーンで、1週間のパトロールを行うほか、月2回抜き打ち的にパトロールを実施する。

当日は、3班に分かれ、一の矢、中央（学群棟周辺）、追越・平砂地区からそれぞれ出発した。参加者は、蛍光黄色のベストを着用し、懐中電灯を持って周囲を見回しながら巡回した。学生生活支援室員の足立和隆助教授（人間総合）は、「敷地が広大なうえ、TXの開通で犯罪が増加する恐れがある。大学として防犯に取り組んでいることを内外にアピールしたい」と話した。

学内の暗がりを改善して欲しいという学生の声に対応し、樹木の伐採や、電灯の新設が必要な箇所の確認も行った。無灯火の自転車にも注意をした。昨年はパトロールで調べた結果をもとに電灯を65基新設した。足立助教授は「毎月2回のパトロールは続けていくつもり。学生にもっと参加をしてもらいたい」と話した。

茗渓・筑波グランドフェスティバル

1月に大学会館で開催
北原前学長らを表彰

本学の前身校、東京教育大などの卒業生と本学生が交流する茗渓・筑波グランドフェスティバル（MTGF）が来年1月15日、大学会館をメーン会場に開催される。第10回となる今回は、学生の参加者を増やすため恒例の懇親会だけでなく、筑波を満喫する3企画を用意した。

当日午前10時から、筑波大学内研究施設見学ツアーを行う。大型流水実験施設がある陸域環境研究センター（TREC）などを見学する。一昨年に同企画を行ったとき、好評だった先端学際領域研究センター（TARA）にも、受け入れを打診中だ。

午後は2つの講演会、「つくばではたらく」と、「日本一実践的な講義――アイディアの構造」が行われる。「つくばではたらく」は、つくば市を拠点に働く人を講師として招き、講演とパネルディスカッションを行う。実行委員の原田匠さん（自然2年）は「つくばで働き、つくばで生きることの魅力を知ってもらいたい」と言う。「アイディアの構造」では、社会学類卒業生で作家・翻訳家の松本侑子氏らを招く。

懇親会の前には第10回記念式典を行う。MTGF開設に貢献した北原保雄前学長ら3人を表彰する。「記念すべき第10回として、より多くの学生、OBに参加して欲しい」と原田さんは話している。

電動昇降式の机を新設
中央図書館3―5階
車いす利用者用に3台

中央図書館の3階から5階まで、ワンフロアに1台ずつ、車いす利用者のための新しい机が設置された。机は電動昇降式の閲覧机で、これによって、どんなサイズの車いすでも閲覧できるようになった。

新設された机は65センチから80センチまで、高さをリモコンで調節することができる。これまでも手動で調節する机が中央図書館5階に1台設置されていたが、高さを変えるには力がいるため一人では使用できず、改善を求める声が強かった。

中央図書館を利用する車いすの学生は現在2、3人。だが、「一人でも必要とする利用者がいるなら」と6月に増設した。設置場所は車いすでも通りやすく、環境の良い位置が選ばれた。利用者によっては電動車いすのコントローラーが机に引っかかるなどの問題もあるが、おおよそ快適に利用できる。

中央図書館3階に設置された机

かかった費用は100万円。大学図書館を支援する田嶋記念大学図書館振興財団から援助を受けた。32件の応募のうち、本学だけが障害者用の備品を申請したという。情報サービス課の岡部幸祐さんは「今後も助成金などを利用して増設してゆきたい」と話している。

附属図書館では利用者へのサービスの向上を目指している。岡部さんは「車いす利用者以外の声にも対応するので意見を寄せてほしい」と呼びかけている。

第28回秋季スポーツデー

のべ3328人が参加
駅伝　教職員チーム入賞逃す

第28回秋季スポーツデーが10月22、23日の両日、陸上競技場を中心に開催され、のべ3328人がいい汗を流した。

1日目はあいにくの雨。開会式での津軽三味線倶楽部無絃塾の演奏とソフトテニスは中止となり、他競技の順序などに変更が出た。キックベースの1日目は中止し、2日目に準々決勝まで行った。サッカーは一部でグラウンド不良があったため試合時間を短縮してトーナメントを組み直した。スポーツフィールドは用意された9種目全てを行った。

今年は新たに学類・専門学群の代表チームがトーナメント形式で競う缶蹴り「KICK THE 缶KELLY」と、閉会式を行った。陸上競技場の入り口に虹色アーチを設置したのも新しい試みだ。

駅伝には教職員の2チームも出場したが、いずれも入賞を逸した。

参加した望月里紗（人間1年）さんは「普段一緒に運動をする機会がない友人たちと参加できて楽しかった」と語っている。

おことわり　「車椅子から」は筆者、風邪のため休載します。

運用を開始した静脈認証システム

図情生の調査

「宿舎に入れない」学生困惑

登録のやり直し相次ぐ

学生生活課「認証にはコツがいる」

学生生活課の指導を受け、データを登録する学生（一の矢学生宿舎５号棟で）

認証率が低く、誤作動も多い――10月中旬から運用を開始した学生宿舎の静脈認証システムについて、こんな問題点が10月26日、全学学類・専門学群代表者会議（全代会）で報告された。

調査したのは図書館情報専門学群の有志学生。全代会の鈴木康博・図情副座長（1年）は「春日地区では試運転がなかったので、自分たちでシステムの信用度を調べた」と話す。

鈴木さんたちの調査によると、全体の認証率は60―70％、中には10回テストして認証されたのは2―3回、全く認証されず、再登録しなければならない居住者もいた。正常に認証される人でも激しい運動後や飲酒後は認証されにくいという結果が出た。5月の記者説明会で岩崎洋一学長も試したが、認証されなかった。

同専門学群1年の女子学生は深夜、認証システムがうまく作動せず、宿舎から閉め出されるという例もあった。鈴木さんは「緊急連絡先も記載されているが、対応に時間がかかる場合もある」と困惑する。

この他、静脈が正確に区別されないという事態も起こった。1人のIDで、他登録者2人が入室できたのだ。鈴木さんは「個人の判別が全く出来ていないのではないか」という。手の甲をかざして入室できたケースもある。

こうした調査結果から鈴木さんは、静脈認証システムには①認証率が低い②誤認証もある③警報の誤作動がある――の3点を問題点として、全代会に報告した。

学生生活課は「認証に際して、コツがいる。要領をつかむまで何度も指導している」と話す。コツとは――装置へ手を伸ばした時、肘が軽く曲がる程度の距離を保って立つ。指を広げたまま真っ直ぐに手を入れ、バーは握らず手の甲全体を感知センサーに押し当てる。同課は「手首を曲げず、全体を押しつけるようにして登録データ範囲を広げるのがコツ」と説明する。説明には1人あたり5分以上をかけているという。

「認証されない」という問い合わせの大半が、姿勢や手首の角度を修正することで解決するという。こうしたトラブルには、ATセキュリティー（本社＝つくば市千現）が、年内いっぱい24時間体制で対応する。

全代会

小学校の教員免許アンケート

54・3％が「取得したい」

全学学類・専門学群代表者会議（全代会）が6月10―30日に、全学を対象に行った小学校教員免許に関するアンケート調査の結果が、まとまった。調査は、全学で教育心理学、教育基礎学を履修している学生を対象に行われた。有効回答1333人中、小学校教員免許が取得可能であれば取得したいという学生は、724人で54・3パーセントだった。

小学校の教員免許取得を希望すると答えた学生に、理由を聞くと、小学校教育に興味があるから・小学校の教員になりたいからと答えた人が460人、中学校や高等学校の免許と一緒に取得しておくと教員採用時に有利だからが196人だった。このほか、希望する職に就けなかったときの保険にしたいからが139人、就職に有利と聞いたからが39人、小学校教員免許が取れると思って入学したと答えた人も17人いた。

また設問1で、中学校か高校の教員免許を取得したいと答えた学生は1205人だった。理由としてあげられたのは、希望する職につけなかったときの保険にしたいからが1419人で34・8パーセント。将来教員になりたいからが519人の36・6パーセントと拮抗した。

当初、全代会は全学類・専門学群で小学校の教員免許取得を可能にすることを目指していた。アンケートの結果を7月8日に林史典副学長（教育担当）、守屋正彦学生担当教員室長（人間総合・教授）に報告した。今学期に入り、人間学類で同様の動きがあることを知り、同学類へ協力する方向に転換した。教育課程専門委員長の荒川万利恵さん（日・日2年）は、「人間学類で、小学校の教職課程が整備されれば、他学類の学生も取得の機会があるのでは」と話している。

ブロードウェーミュージカル「RENT」

院生ら卒業公演 盛況で立ち見も

全米で映画化し、今年12月に公開されるロックミュージカル「RENT」を、本学生を中心とした「SINKI」（代表・三上寛了＝生命環境科学研究科1年）が10月22、23の両日、茨城県南障害学習センター（土浦市）で上演した。2日間で来客297人を集め、生演奏のロックミュージックと演技を楽しんだ。

「RENT」は96年、ブロードウェーで初演され好評を博した。ニューヨークを舞台に、ドラッグやエイズに苦しむ芸術家志望の若者たちの生活を描き、同年ピュリツアー賞を受賞した。題名は、主人公たちが家賃（RENT）も払えないほど貧しいことに由来している。全32曲のロック・バンドの演奏が物語を盛り上げる。

公演では、台詞が全て英語であるため、ステージ袖のスクリーンに字幕で歌詞を表示した。ミュージカルの冒頭、家賃を払えない貧しさを歌った「RENT」が終わると、客席から拍手が沸き上がった。その後も演奏の度に拍手が起こる。三上さんは「言葉の壁を越え、主人公たちの思いを伝えられた」と話した。

「SINKI」が発足したのは昨年7月。演劇サークル「E・S・Sミュージカルセクション」に所属し、当時4年だった三上さんが立ち上げた。知り合いをつてに映像、音響スタッフを探し、本学生ら40人のメンバーを集めた。つくばエクスプレス開業記念イベントとして茨城県より助成金を得て、今年7月に春日地区でプレ公演をしている。

上演した「RENT」の一幕

訂正 第248号「天上大風」の記事で、豚汁が振る舞われたとあるのは駄菓子が配られたの間違いでした。関係者並びに皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。お詫びして訂正します。

焼き物をつくる会

「ゆっくり、慎重に」形とる

熱々の窯から焼き上がった作品を取り出す。この瞬間、「楽しみと不安で気持ちがはやる」と、会長の川崎伸生さん（工システム1年）は言う。

開学以来のサークルで31年目を迎える。水、木、金曜日は午後5時から、土、日曜日は午前9時から、体芸棟51C01の彫塑実習室に思い思いの時間に集まり制作に没頭する。窯は体芸棟と工房棟の電気窯を使う。酒井祐介さん（生物3年）のように「土をこねて、ろくろを回してみたい」という動機で入部する人が多い。現在部員は学群生15人、院生3人を含め18人。

一つの作品を制作するのに1―2カ月はかかる。まず土を練って土中の空気を抜き均一にする菊練りと呼ばれる工程。いかに丹念に練るかが重要だ。練りは「作品の出来ばえに大きく影響する」と川崎さん。入部して最初に覚える基本だ。次に成形。作品によって手で作るひも作り、板作り、型作り、ろくろを使用する成形などさまざまだ。川崎さんは「土の硬さに応じて、力加減をするのがポイント」という。一日乾かしたら底を削り、表面を滑らかにして形を整える。ここで模様を入れることもできる。その後一週間乾燥させ、約800度で素焼きにする。さらに釉薬（うわぐすり）、絵付けをして1200―1300度で本焼き。

食器を作る人が多いが、花瓶、花器、壷、オブジェ、ランプシェイドなど、自分の感性を活かし自由に制作する。土鍋と皿を作った古田真実さん（システム情報工学研究科1年）は「既製品よりも愛着がわく。みんなで鍋をかこみ、喜んでもらえたら」と話す。

鑑賞目的の作品もあるが、古田さんは自分の作品を使ってみて次の作品を作成する際の参考にしたり、イメージにつなげる。

師範はいない。先輩から基本の工程を教わり、あとは自分でやりながら学んでいく。展示会に足を運ぶこともある。テレビでよく見かけるろくろだが、これが意外とうまくいかない。ろくろに土を乗せ、成形すると、中心をとるのが難しく、厚さにかたよりやムラができてしまう。「ゆっくり、慎重に」が肝心だ。

現在は、12月10日に大学会館1階ホワイエで行うクリスマス展示にむけて、一人一作品以上を目標に制作している。

川崎さんは「土は失敗しても再成できるからいい。趣味として陶芸を長く続けたい」と目を輝かせる。同じ土から同じように作り、一緒に焼いてもそれぞれ印象がだいぶ違ってくることがある。ここが陶芸の難しいところでもあり、魅力でもある。おしゃべりを交えて和気あいあいと制作活動をする。ここに31年続く理由があるのだろう。

（本紙・藤井沙織＝社会学類）

クリスマスコンサート

ピアノ・合唱・太鼓で「桐の葉」

芸術系サークル連合会主催のクリスマスコンサートが今年も12月10日午後2時から、大学会館本館で開催される。

第1部は芸術系サークルによるコラボレーション。ピアノ愛好会、合唱団むくどりなど6団体が応援団桐葉の宣揚歌「桐の葉」を演奏する。太鼓と踊りで構成される「桐の葉」にのるピアノや合唱がどう調和するかが見所聞き所だ。

第2部は、管弦楽団、むくどりを中心に6団体がベートーベンの「歓喜の歌―交響曲第九番より」を演奏する。各団体が順に「歓喜の歌」を演奏し、最後に全団体が合奏する。来場者には歌詞カードを配布し、一緒に合唱する予定だ。

同コンサートは今年で30周年を迎える。これを記念し、大学会館2階受付からホールまでの通路の壁に過去10年のサークルの活動を記録した写真220枚を展示する。

奨学金返還説明会

3月満期の学生対象に

日本学生支援機構（旧・日本育英会）は12月7日午後3時から、大学開館講堂で奨学金の返還方法について説明会を開く。対象は来年3月に満期を迎える学群生と院生の奨学生。

当日は、各支援室の学生支援担当か教務担当が配布する関係書類を持参すること。

石打研修所冬季利用

18日9時から予約開始

石打研修所（新潟県南魚沼郡塩沢町）の冬季利用予約受付が本部棟2階の学生生活課4番窓口（福利厚生担当）で始まる。11月18日午前9時から先着順に受け付ける。

利用期間は12月20日から来年3月31日まで。利用開始予定日の一カ月前（土・日、祝祭日の場合は前日）から受け付ける。

12月29日から1月3日までは窓口が閉まるので、1月29日から2月3日の予約に限り、12月28日から受け付ける。

予約確定後は、利用日の7日前（土・日、祝祭日の場合はその前日）までに、利用願、利用者名簿、食事申込書と人数分の料金を添えて同課に提出する。一泊720円で食事は朝、昼食480円、夕食は820円。

問い合わせ＝029・853・2250（学生生活課福利厚生担当）

「学内での説明会は年に一回なので、必ず出席して欲しい」と学生生活課は話している。

「返還誓約書（借用証書）」は、1月13日までに各支援室に提出する。

記者募集

説明会を開催します

編集部では、新人記者募集のための説明会を開催します。11月18、25の両日午後7時半から編集室で行います。参加希望者は、7時20分までに中央図書館前にお越し下さい。

本紙では、企画の立ち上げから取材、撮影、執筆、編集まで全て学生の手で行っています。取材先は、学生から学長、世界大会出場選手やノーベル賞受賞者まで、さまざま。取材範囲も学生宿舎から学長室、スポーツ大会の開催地など全学、全国にわたります。

説明会以外でも毎週火曜日午後6時半から、共同研究棟A104で編集会議を行っています。お気軽にのぞきに来てください。

問い合わせ＝029・853・6699（編集室）

shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

次号は12月12日(月)発行予定です

Who's Who?

コスタリカでプラチナコガネ35匹を採集

星元規 さん（資源2年）

虫の羽音で起床「幸せ」

構造色の謎解明に前進

右手には「世界一」の輝き

緑色の独特の輝きを放つ玉虫やコガネムシ。子供のころ探し回った人も多いのではないか。この「構造色」という輝きに魅せられ、はるばる中米コスタリカまで赴いた青年がいる。「鏡のように自分の顔が羽に映る。あの銀色の輝きがたまりません」。採集した「プラチナコガネ」の標本を手に魅力を話す野生動物研究会の会長、星元規さん（資源2年）だ。

4歳の時、プラチナコガネを図鑑で見て一目惚れした。コガネムシ科で中南米に生息し、餌となる植物以外は生活史も確認されていない。銀や金の発色の良さは「世界一」と絶賛する。珍しい色のものは一匹16万円で取引されることもある。

今年の4月と7月にコスタリカを訪れた。まず「虫がでかい」と驚いた。全長12センチのヘラクレスオオカブトも捕まえた。森林の中で蚊帳のようなネットにくるまって眠り、虫が飛んでくる音で起きる生活に「幸せでした」と一言。採集にはは誘蛾灯を使った。コンビニエンスストアの軒下によくある紫色の蛍光灯のことだ。紫の光に反応し、寄って来た昆虫を採集する。長さは約80センチで、12本を持って行った。重さは30キロ。空港での荷物の重量制限に引っかかったり、スコールで割れたりと苦労は絶えなかったが、プラチナコガネを35匹採集した。「コレクターとしては満足」と目を輝かせる。

「光り物」と昆虫には目がない。赤ん坊のころから昆虫図鑑と宝石の新聞広告を手放さなかった。やがて両方を併せ持つ「構造色」の昆虫を追いかけるようになった。

AC入試で本学を受験する準備をしていた時、採集してきた昆虫の輝きが「構造色」であることを知った。紫外線と赤外線の間の光を反射する細胞の構造で、1000分の1ミリの違いで色が変わる。薄ければ紫に近く、厚くなると赤に近くなる。カラスの黒い羽や魚の鱗なども構造色だ。「あの輝きの秘密が知りたくなりました」。

今年10月22日には大阪大学で開かれた構造色研究の日本最高峰、第6回構造色シンポジウムでプラチナコガネに関する日本で最初の論文を発表した。羽の表面が日本のコガネムシより滑らかなことを突き止め、「鏡の様な」輝きの謎の解明に一歩近づいた。

次の目標はプラチナコガネの生態を明らかにすることだ。コスタリカ旅行では誘蛾灯に寄ってきたものしか発見できなかったため、生活史を知ることはできなかった。だが、現地の人から「小雨の時によく飛んでくる」と聞いたり、採集したものを観察し、葉っぱの縁にいることが多いことを発見した。確実に前進している。

昆虫がなぜ構造色を持つのか、その色合いにはどんな利点があるのか―疑問は尽きない。「解明すればネイチャー（英科学誌）ものですから」。虫好きの青年が「研究者」の顔を見せ始めている。

（本紙・沖浦裕明＝比較文化学類）

大学会館書籍部ベストセラー

1	東京タワー　リリー・フランキー/扶桑社
2	東京奇譚集　村上春樹/新潮社
3	告白　チャールズ・R・ジェンキンス/角川書店
4	その日のまえに　重松清/文芸春秋
5	野ブタ。をプロデュース　白岩玄/河出書房新社
6	細野真宏の世界一わかりやすい株の本　細野真宏/文芸春秋
7	生きて死ぬ知慧　柳沢桂子/小学館
8	チョコレート工場の秘密　ロアルド・ダール/評論社
9	きょうの猫村さん(1)　ほしのよりこ/マガジンハウス
10	ハッピーバースデー　青木和雄/金の星社

10月の1位は、リリー・フランキーの「東京タワー」。3位は「告白」。拉致被害者の曽我ひとみさんの夫、チャールズ・R・ジェンキンス氏の約40年にわたる北朝鮮での生活――。逃亡の経緯や妻との出会い、拉致の実態などが明らかにされる。

催事は、日本体育学会フェア（10％オフ、11月16日から26日まで）、ベレ出版会フェア（15％オフ、11月末まで）、就職本フェア（10％オフ、12月末まで）

催事

展覧会

◆第21回筑波大学大学院修士課程芸術研究科作品展（MC展）　11月15日から23日まで、つくば美術館（つくば市吾妻）で開催される。開館時間は午前9時半から午後5時まで。最終日は午後4時まで、入場は同3時半まで。

MC展は、芸術研究科で洋画・日本画・版画を専攻している学生26人による作品展。全国レベルの公募展で高い評価を得ている学生たちの力作が一堂に会する。今回は80点を展示する。入場料は無料。

◆第11回うしく現代美術展　11月20日から12月2日まで、牛久市中央生涯学習センター、牛久市女化青年研修所で。開館時間は午前10時から午後4時半まで。4時まで入館できる。最終日は、中央生涯学習センターは午後2時半まで、女化青年研修所は午後3時まで。11月21、28日は休館日。

牛久を中心に近隣から参加する芸術家、57人による作品展。分野は平面、クラフト、映像など。今年のテーマは「美のある街へ」。本学関係者は田代勝教授（人間総合）、玉川信一教授（同）、藤田志朗教授（同）など16人が出品している。27日は中央生涯学習センターで、ワークショップ、テンペラ絵具で「草花」を描こうも開く。入場料は無料。

問い合わせ＝029・871・2301（牛久市教育委員会生涯学習課）

説明会

◆就活BOX始マル！　就職支援サークル「ジュエル」が主催し、第3弾就職関連イベントが11月16日、1H201教室で行われる。開催時間は、午後3時半から午後6時半まで。

4つのイベントを同時開催する。エントリーシートの書き方講座、企業選びについて、就活スケージュール、内定者に聞くとっておきの話。就職課の久保田優氏や内定者に就職活動の極意を聞く。

筑波野生動物図鑑

◇バン◇

全国の沼、水田など、水辺に生息する鳥。全身が黒色で、脇と尾に白い斑がある。夏は額と嘴が鮮やかな赤になる。不釣り合いな長い足指をもち、水草の上を歩きまわっている。泳ぎや潜水もする。

兵太郎池ではこの時期、蓮の葉をついばむ姿や、ときにカルガモの集団に混じって羽づくろいしている姿を観察することができる。「クルルー」と鳴く。（写真・文＝清水将太、生物二年野生動物研究会）